宮崎医大整形外科

同門会誌

第 12 号

平成13年2月

宮崎医科大学整形外科学教室同門会

平成13年度　宮崎医科大学整形外科学教室同門会忘年会　平成12年11月25日　於：ホテルひまわり荘

平成12年度　宮崎医科大学整形外科学教室　新入教室員歓迎会　H12.　5.　27　於：みやざき会館

会　長
河野雅行

ご　挨　拶

『激動の世紀』と言われる20世紀も終りに近づき、新世紀が始まろうとしていますが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。世紀末はこの世の終わりで、大事件が頻発すると言う者がおり、暗示に掛り易い私などは様々な事件に出会う度に、表面上は平静を装いながらも内心では「悪い結果にならないように」と神仏の加護を念じておりました。お陰で今迄のところ何とか過ごしています。尤も世の中は相変わらず先行き不透明で逼塞感・厭世観が漂っており、この状態が世紀末現象かも知れません。そのような世相に加えて歳のせいか心の華やぐ事も少く、多分に「初老期欝」の発症かも知れないと案じております。

残念ながら本年もまず訃報からお伝えしなければなりません。皆様は既に御存知の事と思いますが、私達の大先輩で同門会のお目付け役でもあられました山田先生が御逝去されました。同門会発足当初から万事に渡り御指導戴いておりました。大きな支柱を失ったようで誠に残念です。御冥福をお祈りいたします。昨年より同門会員の訃報が続いております。皆様方におかれましては更なる御自愛をお願い致します。

教室では「日本臨床スポーツ医学会」を嚆矢として様々な学会、研究発表、留学、野球と滞りなく積極的に活動されており心強い限りです。今後の御活躍をも期待しております。今期新規入会は小薗敬洋、小牧亘、中村嘉宏先生の３名の方々です。新しい勢いの入会を歓迎いたしますと共に、同門会活動への積極的参加をお願いいたします。現在同門会員数は159名です。内訳は正会員123名、賛助会員36名となります。

その中から本年度は谷口先生、津曲先生が宮崎市内で開業されました。世間の評判では既に御盛業中との由です。同門

からは昭和55年に開業した20年選手から数えて17名となりました。多事多難の折ではございますが、健康に留意して頑張って下さい。

現在の日本経済は相変わらず低迷を続けており、政治に至っては全く理解できない状態です。余りにも経済主導で世の中が廻っているのは不愉快ですが現状では止むを得ません。此の様な政治・経済の状況下では当然社会情勢は厳く、明るい兆しが見え難くなります。その上医療を廻る情勢は、少子・高齢化、介護保険、医師過剰、医療訴訟の頻発等の諸問題に加え、様々な制度の導入・改編が活発で流動的であり、一時も気を抜けません。今後の見通しを定かに記すのは困難ですが、常に「医療費仰制」が大前提・最優先事項に挙げられますので、少なくとも好ましくない方に向かっているのは間違いないところです。

期待された第４次医療法改定も我々医師にとり朗報とは言えず、医療法改定の毎に改悪が進む印象は拭えません。一見メリットの裏に大きなデメリットが潜んでいる場合も多く有り、油断はできません。

一方このような厳しい状況の時にこそ、気の合った者同志の集りである同門会の存在意義が有るのだとも言えます。その意味からも今後の同門会は、会員相互扶助により窮状を打破し、将来に希望を見出せる一助と成れる体制作りが必要でしょう。

来る新世紀が皆様方にとりまして輝かしく幸せな世紀で有りますよう願って止みません。

巻　頭　言

教授　田　島　直　也

ミレニアムの年、今年もあと１カ月余りになりました。昨年10月13日には同門会賛助会員、横山正昭先生、翌日、同後藤一成先生、また、今年10月23日には特別会員の山田文夫先生がお亡くなりになられました。

御三人とも教室に対し、それぞれの立場からご支援いただいていたし、まだこれからも永く御助言頂きたいと思っていたのに誠に残念であり、心からお悔やみ申し上げます。

今年は教室主催の学会として第11回日本臨床スポーツ医学会を10月28日・29日にワールドコンベンションセンターで学会テーマ“スポーツ医学21世紀への出発（たびだち）”として行いました。教室、同門の先生方には御協力・支援頂き、この場をかりてお礼申し上げます。

同学会は、整形外科だけでなく内科、小児科、脳外科、産婦人科、リハビリテーション科等の複数診療科からなる学会であり、また学術集会の他、前日のスポーツアクティビティ、会長招宴、１日目の全員懇親会（オーシャンドーム）と学会関連行事も計画しましたが、大過なく無事終了することができました。

本学会の九州での開催は初めてでしたが、スポーツ医学が社会的にも認識されつつある今日、宮崎で本学会を開催できたことは非常によかったと思っています。

臨床スポーツ医学会の歴代の会長の提言の１つに分化から統合・連携というのがあります。しかし、これは臨床スポーツ医学ばかりでなく整形外科にもいえることであり、整形外科も分化が進み専門化しすぎると全体をみられない偏った医師が育ちます。全日本クラスの学会で発表し全国的に認められるには、ある分野を集中的にやる必要があります。しかし整形外科医としては少なくとも整形外科の守備範囲の診察、治療ができるようになっておく必要があります。

21世紀は福祉、医療、保健の連携、総合ケアが中心になると思われます。その中にあって整形外科分野では再生医学、遺伝子に関連した医学が発達すると思

われます。手術部門では最小侵襲外科がますます発達し人工関節も材質を含め更なる飛躍が期待できると考えられます。

一方、予防医学では健康維持、疾病予防の健康スポーツが必要となり競技スポーツ分野と共にスポーツ関連医学はさらに発達することが期待されます。

教室の方では、2002年に第31回日本脊椎脊髄病学会（旧日本脊椎外科）を開催する予定ですが、来年一年は特に学会主催等の予定はありません。来年は教室内に目を向け、宮崎から世界に発進できるoriginalityの研究を目指し内部充実の年にしたいと思います。同門会の先生方におかれましては来年も教室に対し温かい御協力、支援をお願いし、また先生方にとっても来年も良い年であることを祈念いたします。

目　　次

ご　挨　拶 …… 会長 河野雅行
巻　頭　言 …… 教授 田島直也
同門会のおしらせ …… 幹事 岡田光司 …… 1
医局長挨拶
　医局長を終えて …… 黒木龍二 …… 2
　医局長就任にあたって …… 園田典生 …… 4
随　　筆
　山田文夫博士を悼む …… 玉井達二 …… 5
　亡き山田文夫先生を悼む …… 木村千仭 …… 6
　心の合わせ鏡 …… 玉井達二 …… 7
　シドニーオリンピックの裏側報告 …… 押川紘一郎 …… 8
　2000年ホノルルマラソン出場記 …… 岡田光司 …… 10
　樋口家の夏休み …… 樋口潤一 …… 12
　ちょこっとインターネット …… 山口和正 …… 14
学会報告
　第11回日本臨床スポーツ医学会学術集会を終えて …… 園田典生 …… 18
留　学　記
　雪に覆われたとある大地の片隅にて …… 久保紳一郎 …… 19
新規開業
　新規開業 …… 津曲孝康 …… 22
　開業して… …… 谷口博信 …… 24
野球大会報告
　西日本野球大会を終えて　一軍 …… 福元洋一 …… 26
　　二軍 …… 坂本武郎 …… 28
平成12年同門会ゴルフの報告 …… 平川俊一 …… 30
平成12年同門会テニスの報告 …… 川野啓一郎 …… 32

新関連病院紹介
埼玉医科大学麻酔科 …… 川野彰裕 …… 33
えびの市立病院 …… 谷畠満 …… 34
夫を語る …… 36
認定医試験を終えて …… 濱田浩朗 …… 37
塩月康弘 …… 38
川添浩史 …… 38
野辺達郎 …… 39
医局旅行
厚生係と医局旅行 …… 矢野浩明 …… 40
新入会員紹介（賛助会員） …… 松本英裕 …… 42
寳亀玲一 …… 43
新入会員自己紹介（正会員） …… 小薗敬洋 …… 44
小牧亘 …… 44
中村嘉宏 …… 45
教室同門の研究業績 …… 46
編集後記 …… 76

同門会お知らせ

2001年にあたって

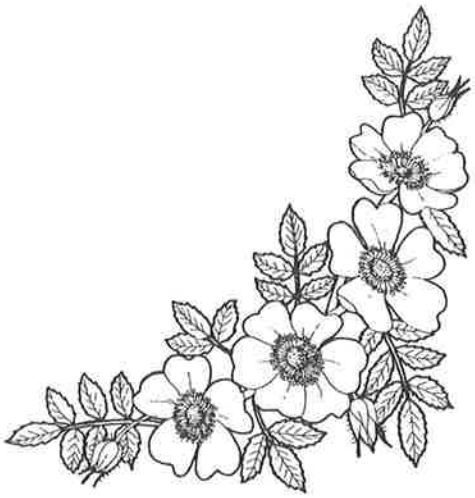
幹事 岡田光司

去る平成12年11月25日（土）に定例の総会が開催されましたが、木村先生よりこの同門会が昭和56年10月に設立されたとの旨、お話がありました。すなわち今年（2001年）は会の設立20年目に当たります。設立当初の10人足らずの会員も、いつの間にか159名となっておりまして、会としても一つの節目を迎えることになったわけです。今後の会の在り方・運営につきましても更なる検討・工夫が望まれるところです。

また、ご周知の如く昨今の社会全体の環境の変化は著しく、特に今後の10年間につきまして医療・福祉の分野でも想像を絶する激変が予想されています。これまでの手法がそのままでは通用しない時代となるわけで、会といたしましても変化に振り回されることなく今後の対応を新たに、これを乗り切らねばなりません。会員の皆様方にはそのための貴重なご意見・ご提言をお願いいたします。

また今年（平成13年11月）は役員改選が予定されていますが、今後を乗り切るための役員選出という意味では重要ですので、こちらの方も御留意のほどを是非お願いいたします。

以上、簡単ではございますが同門会からのお知らせとさせて頂きます。



医局長挨拶

医局長を終えて

～「スイッチ」と「家族」～

前医局長　黒　木　龍　二

1999年1月より2000年12月31日までの731日間、医局長を務めさせていただきました。この間大きな病気もせず無事務めることができましたのは、教室員はもとより同門、ならびに関連病院の先生方の御理解と御協力の賜物と、大変感謝致しております。この場をお借りしまして心よりお礼申し上げます。

さて、この同門会誌の原稿依頼を受けた当初はこの2年間の教室関係行事や関連病院の動きなどにつきまして、報告も兼ねて記載しようと考えておりましたが、それぞれの担当者からの報告が他項に述べられていることと思いますので、割愛することと致しました。そこでこの医局長職の2年間で感じたこと、努力してきたことなど、どうでもよいことを思いつくままに書いてみることに致しました。

物事を振り返ってみると大抵の場合辛かったことがまず思い浮かぶものです。2年間を通して辛かったことは何と言っても教室員数の不足でした。最初にそれが訪れたのは医局長1年目の2月、研修医ローテーション制度が（記憶している限りでは）ほぼ予告なしに決定し、その年の新入局員から実施すると通達が来たことでした。それは研修医が一時的に減ると同時に、研修医が大学外の関連病院に勤務することができなくなるということで、突然関連病院の見直しを考えざるを得ない状況になってしまいました。またこの時期にはその年の開業などに伴う退局予定者もある程度判っており、新入局員が少ないことも承知しておりましたので、ますます頭が痛くなってまいりました。着任早々このような自体となり、どこから手をつけるべきか考える日々が続きました。関連病院を維持するためには学内の人数を減らすしか方法がないわけですが、すでに1月の時点で退局その他で学内が7名減っておりほぼ限界の状態でしたので、やむを得ず教授とともに関連病院の縮小を検討することになってしまいました。このことに関しましては多数の病院や関係者に多大な御迷惑をおかけし、現在でも大変心苦しく思っております。

今だから言えることですが、実はこの医局長になって間もない時点でその年の7月、翌年の1月および7月の人事まで計画を考えておりました。これは具体的な人選はもちろんできませんが、関連病院の人数配分や大学院生、留学予定者、学内のグループ別の人数配分、非常勤の勤務先まで含まれており、それを元にその後の人事を考えました。前述のように学内のシステムの変換期でありましたので（その当時は医局長は1年で終了するものと考えておりましたが）、翌年の状況を見据える必要があり、関連病院の見直しを中心とした人事は2年計画で行わないと無理であると最初から考えていました。

翌年も医局長を続けなければならないだろうということは、1年目の秋頃より薄々感じておりました。その理由は前途の人事の件もありまし

たが、日本臨床スポーツ医学会を1年後に控えており、学会担当が20年近くの悪友である園田現医局長でありましたので、自分が医局長の立場にいた方が、色々な面で便利であろうと思ったからです。おそらく教授もそれらのことを踏まえた上で医局長続行を命じたものと思っています（現実に言われたときは少しショックでした）。

2年間とも日整会親善野球大会に参加できたことは非常に幸運でした。横浜、神戸での開催で、選手としては到底参加できませんが、マネージャー兼ランナーコーチ兼ツアコンとして同行しました。1年目は判らないことが多く手探りの状態でしたが、チームはベスト4進出で、2年目ともなるとツアコンの腕にも磨きがかかり、完璧な準備・計画の元で神戸に乗り込みましたが、1回戦で敗れてしまいました。お陰で神戸の街を、いやいや学術集会を十分堪能できました。

2年間を通して努力したことは正直言って何もありません。ただ、努力ではありませんが、家に帰った後は医局のことは一切考えないようにしておりました。自宅が宮崎市内のため通勤には幸い30～40分かかります。大学を出てから家につくまでの間に「スイッチ」を切り、翌朝家を出てから大学に到着するまでの間で再び「スイッチ」を入れていました。自宅でも仕事ができるようにとコンピュータを置いておりましたが、自宅で仕事をすることはほとんどありませんでした。

また可能な限り早く帰宅するようにしていました。「医局長だから」という言葉が好きではなく、家ではできるだけそれまでと変わらない生活をしようと思っておりましたし、人それぞれだと思いますが、「今日は何時には帰る」と決めて仕事をした方が集中してできるからです。おそらく歴代の医局長の中で自分ほど早く帰宅していた先生はいないだろうと思います。翌日できることは翌日に廻し、決して無理をしないようにしておりました。家族も自分が帰ってくるのを何時までも待っており、帰ってから一緒に夕食をとっています。したがっていくら遅くても一人で食事をとったことは一度もなく、寂しい思いはしておりません。また土日は完全に「スイッチ」を切り、暇を見つけては家族で遠出をし、現実から離れるようにしておりました。2年間、大きなストレスを感じないまま過ごせた本当の理由はこのような「スイッチ」と「家族」でありました。

医局長を務めてみて物の見方は多少変わってきていると実感しています。自分も含めてとくに出向病院に勤務し医局から離れていると、勘違いしやすいものですが、病院が求めているものは、ほとんどの場合あくまでも「大学の医局との関連」であり、「個人」ではありません。それをいかにも自分が求められていると勘違いし、医局を離れてそこに就職したいとか、大学とは切り離しても自分はやっていけるなどと考えていたり、過去に考えたことがある人はたくさんいると思います。しかし、現在仕事ができ生活ができているのは「大学があってのこと」であることを決して忘れてはならないと思います。また人事の際に多くの若い教室員から「大学だけは」という言葉を聞きました。これは大学病院は特殊で診療以外の雑用が多いためにそう感じているものと思いますが、それを実際にやっている人がいることを忘れてはなりません。

以上、おもいつくままに本音を書かせていただきました。この2年間は自分では「教室・医局のため」にできることはすべて実行したと思っています。今後は立場こそ多少違いますが、園田現医局長のサポートをしながら、その一方で「自分のため」に時間を費やしたいと考えております。ただ今後も「スイッチ」の切り替えは続け、家族がもっと早い時間に食事がとれるよう、時間を有効に使うようにがんばっていきたいと思います。

2年間の医局長の間、大変お世話になりました。

医局長就任にあたって

園　田　典　生

平成13年１月から前任の黒木龍二先生にかわって医局長をおおせつかりました。黒木先生は２年間、お疲れさまでした。教室にとって今年、来年はさまざまな意味で大きな年になることが予想され、その時期に医局長をすることは自分自身の教室へのご奉公と考えお引き受けしました。私が入局した当時（平成元年）は、現在ご開業されている平川先生が医局長をされており教室は現在と同じ状況にありました。入局したてで、われわれが診療に対する勉強で毎日を過ごしていたころに医局長が教室の将来に対してどのようなご苦労をされていたかを考えると頭がさがる思いです。当時と比べると現在、大学に残っている教室員は自分も含め若いように思います。それだけに同門の先生をはじめ、学外に出向されている先生のご助言・ご支援が必要になると思います。どうぞよろしくお願いします。

この文書を書いている間にも後ろの席の黒木先生の『医局長BOX』には書類が山積みになっておりその処理におわれているようです。また、黒木先生のCPUの画面のカウントダウンが「24」をしめしてます。その前の医局長だった柏木先生はカレンダーを毎日塗りつぶしていたことを思いだします。医局長とはそのような心境になるのでしょうね。（就任前からこのようなネガティブ思考ではいけません。）

とにかく、教室にとり大事な時期がせまっており、今後は常に将来（教室・教室員の先生方）を考えてその運営に努力したいと考えてますが、自分のできることは限られているでしょうから背伸びせずにやりたいと思います。

また、今後の教室主催の学会として平成14年６月６日、７日に日本脊椎脊髄病学会をサミットホールにて開催することが決まっております。昨年、臨床スポーツ医学会学術集会を開催したばかりですが、田島教授が会長になられる最後の大きな学会です。有意義な学会が開催できるように学内では脊椎グループの先生を中心に準備しておりますのでご支援の程よろしくお願い致します。

随筆

山田文夫博士を悼む

玉　井　達　二

山田先生、貴方はこれからという時に、10月23日天国に旅立たれました。

大学から帰ると、奥様からの悲しいお知らせが私を待っていて、本当に驚き、皆様のお悲しみをお察しして、胸が一杯になりました。そして若き良い戦友をまた一人失ったと、呆然となりました。

貴方は昭和34年に熊本大学医学部を卒業し、1年のインターンを終え、翌35年から大学院学生として整形外科学教室で、私共と一緒に研究に励み、臨床経験を積まれました。そして、39年にはその努力が見事に実って、「リウマチ様関節炎の手の変形と機能障害に関する研究」という素晴らしい論文を発表し、医学博士の称号を授与されました。

教室では研究、臨床のみならず、共に遊び、スポーツに汗を流したものでした。

貴方は生来の良き人間性に加え、野球部で鍛えた強い意志と体力を持たれ、そして、教室での生活の中では、同僚や患者さんから得た多くのものを、更に自分の中で大きく育て、患者さんを中心に据えた良き医療を行うチームの要としての素養を、しっかりと身につけられました。研究も纏まり、臨床経験豊な整形外科医となって宮崎の江南病院に赴任し、整形外科の発展・充実に尽力し、その後、「山田整形外科医院」を創設し、医師会の方々と共に、地域医療のために献身的な努力をされました。

貴方は人情に厚く、同僚、同門に注がれた温かい心は、人々の心の中で生き続けることと思いますし、医学界以外にも多くの友人に恵まれておられましたが、貴方の人柄を物語るものと思っております。

昭和48年10月から、貴方がおられる宮崎に、勝木先生と共に私は宮崎医科大学創設の任務を受け、関わりを持つことになりました。この仕事は私にとって大変なものでしたが、私のストレス解消のためにと、ご夫妻がしてくださった心配りに、本当に救われました。

宮崎医大の整形外科学教室が発足してからは、良き賛助会員（特別会員）として、その発展に大きな貢献をして来られましたが、本当に有り難いことでした。

しかし、思わぬ病のために倒れられ、長く辛い闘病生活でしたが、それにも拘らず、奥様はじめご子息、ご息女、そして宮崎医大整形外科教室の同門である女婿黒木隆男先生と共に、「整和会あかえ整形外科医院」を見事に作り上げられた姿に、誠に敬服致しました。貴方の愛の手によって蒔かれた種は、必ずや地域の病める方が頼りとする、大きな止まり木としての役割を発揮し続けることと確信します。

奥様始め皆様方の手厚いご看護のかいもなく逝かれ、本当に残念でありますが、致し方ありません。どうぞゆっくりお眠り下さい。

40年の温かいお付き合い、本当にありがとうございました。

心からお悔やみ申し上げ、ご冥福をお祈り致します。

亡き山田文夫先生を悼む

木　村　千　仭

往時茫々ではあるが、この30余年の間、陰になり日向になりして親しく人生の生きざまを学んできた経過を振り返り、感謝の念をこめてお別れの一文を捧げます。

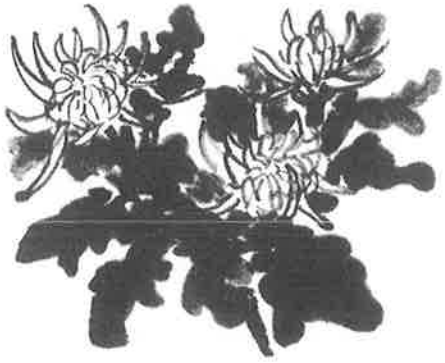
先生は、昭和34年に熊大医学部を卒業され、35年春に熊大整形の玉井門下生として入局、大学院に進まれ研究に、また折々には臨床にも研鑽を積まれ、当時としてはユニークな仕事であった「リウマチの変形と機能障害」の論文は評価も高く、熊本医学会賞を受けられた時の感激は八王子通りの貴君の自宅で同級の上原先生と３人で夜遅くまで祝杯をあげ謳歌したものでした。その陰には奥様の一方ならぬご協力があったことは申すまでもありません。一方医局時代は、野球チームの名野手、名バッターとして西日本整形大会でいつも優勝戦に残る全盛時代をつくり上げた功労者であり、また三共の女子プロ野球「レッドソックス」との試合など、いまだに眼前に浮かんで来ます。

昭和40年代には、当時医療過疎地といわれた宮崎の江南病院整形外科部長として孤高の実蹟を拡げられ、また地元医師会との協力で宮崎医大設立に多大の協力と努力を尽くされたことは、当時の私共大学教官は勿論・地域社会住民にとっても大いなる功徳であり得たし、昭和56年設立の教室同門会にすすんで賛助会員第一号を申し出られ側面から助力頂いたことに初代会長として感謝申し上げる処であります。

幸い御家族が病院を継がれご盛業の由なので、山田先生は天の褥で、ゆっくりと眠りにお就きになって下さい。

ではどうか安らかなご冥福をお祈り致します。

合　掌



心の合わせ鏡

玉井達二

20世紀最後のオリンピックもパラリンピックも終わりました。いよいよ21世紀の幕開けです。私は人生50年と言われた時代に生まれ、戦火を潜り抜け、多くの方々のご理解とご協力と堪忍の中で、80数年の間歩かせて頂きました。しかし、私の人生マラソンも、いよいよ終盤に近付いた事を感じながら、朝を迎え、夜を送る日々です。そんな中で、こんな年になっても、まだまだ教えられる事ばかり。あらゆる面で成熟していない自分を、恥ずかしく思っています。

昔母が鏡台の前に座って、頭を右に回したり、左に傾げたりしながら髪を整えていた姿を瞼に浮かべながら、姿見の前に立って自分の後ろ姿を眺めますと、その軽々とした姿にあやふやさえ覚えています。

この頃、よく「父の背中」という文字を目にします。多くの人々が、いろいろな「父の背中」を語っておられます。父と同じように、私は恩師、友人、患者さん等々多くの人々から、背中でいろいろなことを教えて頂いて来ました。

朝起きて鏡の前で、髭を剃り、髪を梳かしながら、自分の顔が今日一日、人々にどんな感じを与えるかを考えることも大切ですし、心の合わせ鏡で自分の背中を見ることも必要ではないかと思っていますが、なかなかできません。

日々目にする新聞の記事にも、何時も反省させられる事が載っていて、読む度に私は叱られているような気がします。

読まれた方も多いと思いますが、「天声人語」に次のような文が載っていました。

「北海道の広い道。おばあさんが渡っているうちに、信号が赤になる。寄り添うようにしていた小学4年くらいの男の子が、片手を上げ、止ってと車に会釈した。おばあさんが渡り終える。男の子は野球帽をとりペコンとお辞儀をした」。

これを読み、心の温まる思いがしましたが、自分の「心の合わせ鏡」に、この小学生のさり気ない優しい行動が、果たしてお前にすらっと出来るのかと問われ、改めて考えさせられました。

子供の素直さ、どんな色にも染まる純粋さ、そしてスポンジのような吸収力、どれを取っても、私には遠い昔となりました。

優しさは心の強さがあって初めて生まれると言われます。それだけに、この少年の心を育てられたご両親、彼を取り巻く人々や環境の素晴らしさを感じます。

自分の背中を「心の合わせ鏡」で見ながら、残り少ない人生しか持たない私も、何とか少しでも強くなるように努力し、皆さんと一緒に、21世紀が優しさに満ち満ちた世紀になりますように、心から祈りたいと思っております。

シドニーオリンピックの裏側報告

押　川　紘一郎

シドニーに行ってまいりました。混み合ったオリンピック時期に、なにを好き好んで出かけるのかいなあとお思いの方もいらっしゃることでございましょう。実をもうしますと、16年前、田島教授の日本体協ソウルオリンピック視察に無理矢理お供させていただいたことが私のオリンピックの始まりでなのです。オリンピック競技はスポーツに形を変えた戦争であることを、選手村滞在と、ソウルスタジアムで実感し、孤独に打ち勝って戦う日本の選手達の姿に身体のふるえるような感動を覚えたのをいまでもはっきりと思い出すことができます。４年に一度、この季節になるとどうにも身体がオリンピックに引き込まれて、家庭も仕事も頭の中に無くなってしまうのであります。

さて、この気持ちをご理解いただいたのが同門会長の河野雅行先生でありました。先生の奥様を巻き込んだ３人でオリンピックめぐりを続けることとなった訳であります。前回のアトランタでは到着直後ホテルでの火事騒ぎや爆破事件などに遭遇したものの、米国的な近代的オリンピックを楽しんだのであります。私は愛妻家河野先生ご夫妻のツーショットを撮りながら日本選手の応援に駆け回っておりましたが、残念ながら金メダルの現場に立ち会うことは一度もできなかったのであります。しかし今回のシドニーはひと味ちがった大会を経験することとなりました。開会式翌日の女子柔道で田村選手が目のさめるような金メダルを獲得した興奮冷めやらぬ会場で、男子柔道野村選手の２大会連続金メダルの獲得と、まさに日本人の幸せを実感できたのです。さらに翌々日の男子柔道でも滝本選手が金メダルという、なんと３回も日の丸掲揚に立ち会えたのであります。これは河野先生の綿密なる選手実力の分析にもとづく観戦計画による結果であります。さらに日本柔道選手団山下監督と同席といった恵まれた環境での金メダル体験となりました。これも河野先生の人徳のなすところでありましょう。感謝。感謝。この幸せに浸りながら、この後のシドニー滞在は、河野ツアーコンダクターの指示に従い、すべてにハッピーラッキーワンダフルの旅となったのであります。しかしここまでの生活はすべて夜の８時以降のことでありました。私にとりまして、今回のオリンピックは朝５時から夜８時まではいままでの大会と別の生活が待っておりました。それはシドニーよりトライアスロンがオリンピック正式種目として採用されたことです。日本トライアスロン連合のメディカル委員としてオリンピック選手の健康管理にあたっておりましたので、大会１ケ月前から現地とインターネットのメールリングでチーム帯同ドクター連絡を取り合い、現地に到着後も１日の大半はチームのお手伝いに明け暮れました。試合の結果は残念ながら女子選手１名が落車負傷しメダル獲得とはなりませんでしたが、オペラハ

ウスまえの美しいコースで、今大会最高の15万人の観衆の中でレースを体験できた選手達は幸せでした。試合後私は九州ブロックの会長の立場で、ダーリンハーバーサイドのレストランに選手達とドクター、トレーナーを招待して、パーティーを開きました。ソウルから数えて、４回目のオリンピック。日本選手達の外国人やオリンピックに対する感覚もすっかり変わっているように感じました。流暢ではないけれど、まったく抵抗無くレストランの雰囲気にとけ込み、ウエイトレスと英語で会話を楽しむ姿は、たのもしいものがありました。これが成績にも反映してくれることを祈りながら、オーストラリアのワインに身をまかせて、私の今回オリンピックは無事にゴールとなりました。次はアテネ。皆様、トライアスロン金メダル楽しみにマアッテテネ。（待っててね）

女子トライアスロン日本選手と応援団

15万人の拍手に迎えられるゴール直前の平尾選手
（九州小倉出身、17位）

オリンピック競技場は徹底してスポンサーのマクドナルドだけ。

シドニー市民は「オージー」精神でカーニバル気分。

オリンピックストアーは万引き防止で、大きな袋を担がされての買いものです。

ハーバーブリッジは五輪でライトアップ。トライアスロンコース全景撮影のため、ブリッジ最頂上まで３時間かけて登りました。

2000年ホノルルマラソン出場記

岡　田　光　司

1993年の宮崎での世界ベテランズ陸上大会がきっかけとなり、ジョギングを始めて５年目、知名度高いホノルルマラソンに出場したのでその概要を紹介する。

スタート：12月10日午前５時（日本時間午前０時）、花火を合図にアラモアナ公園の道路に26,000人（日本人14,000人）が繰り出し第28回大会が始まった。

前半：声援“Good Job！”の中をクリスマスイルミネーションが暗闇に輝くホノルル市街を走り抜け、ダイアモンドヘッドを周回し、東進。集団でハイウエイを淡々と走るが、９マイル付近でようやく日の出、日差しはしだいに厳しくなった。

後半：ハーフを過ぎて閑静なハワイカイの街を折り返す頃には、気温は上昇（当日の最高気温は摂氏29度）、脱水者のためか救急車がコース上を頻繁に行き来していた。20マイル付近が、疲れもあって一番の勝負所であった。給水を繰り返しながら、往路のダイアモンドヘッドの坂を逆送し、ゴールのカピオラニ公園にたどり着いた。

フィニッシュ：ゲートを夫婦で通過、完走の疲労はむしろ心地好く、同時にボランティアへの深い感謝の念が自然に満ちてくる。昨年の青島太平洋マラソンでは家内に置いていかれたが、今年はお互いに伴走し合っての同時ゴールが実現でき、記念すべき大会参加となった。

記録：チップ計測によるタイムは５時間19分38秒、順位は9,032位（完走者22,636名）。忘れ物を取りに途中ホテルに寄ったりして、目標の５時間は切れなかったが、前後半をマイペースのイーブンペースで走れたのは上首尾で、これが現在の実力であろう。

車椅子（自転車の伴走付き）、競歩、老若男女（14歳前から90歳代まで）と様々なエントリーがあり、そのベスト記録を別表にまとめたのでご参考まで。80歳代で３時間32分15秒の記録とは驚きで、これら中高年の記録は小生には大いなる励みである。トレーニングをしていても42.195km（26.2マイル）はやはり距離的に厳しいものがあるが、それだけに様々な感動的・印象的な体験ができる。特に完走での達成感は素晴らしく、これを求めて今後も各地の大会参加をと考えている。

マラソンコースの概要（前日の新聞より）

2000年ホノルル大会ベスト記録

AGE	MALE	FEMALE
～14	Yoshiki K, Japan, 3:12:20	Tomomi S, Japan, 4:15:17
15～19	Makoto S, Japan, 2:50:17	Sachiko M, Japan, 3:00:43
20～29	Jimmy M, Kenya, 2:15:19 (TOP)	Lyubov M, Russia, 2:28:33 (TOP)
30～39	Mbarak H, Kenya, 2:15:38	Svetlana Z, Russia, 2:28:51
40～49	Jituo A, Japan, 2:35:41	Eriko A, Japan, 2:47:24
50～59	Yoshihisa H, Japan, 2:36:44	Aiko S, Japan, 3:25:17
60～69	Mitsuo K, Japan, 3:15:09	Miyo I, Japan, 3:46:33
70～79	Shuhei S, Japan, 3:47:00	Kiyoko Y, Japan, 4:23:24
80～89	Koichi K, Japan, 3:32:15	Bonnie E K, M Town, 8:10:45
90～	Rikichi S, Japan, 7:49:44	
RACE WALKER (競歩) Charies P R, 46, England, 4:24:07		
WHEELER (車椅子) Krige S, 37, Cedartown, 1:31:04		

ついにフルマラソンのフィニッシャー。

fect day
race

ハワイカイよりダイアモンドヘッド（反対側はホノルル市街）を望む。ハイウエイの片側車線上を往路、復路のランナー集団が行き違っている。（翌日の新聞より）

樋口家の夏休み

樋　口　潤　一

「お父さん、今日お仕事じゃない？」「お休みだよ」「じゃあ、就大と遊ぶ？」

樋口家の夏休みは、毎日この会話から始まった。今年の夏休みは９月15日から22日までの約１週間、家族４人でシドニーオリンピック・サッカー観戦ツアーに参加しました。もちろん長男就大（２歳８ヶ月）、長女涼香（１歳３ヶ月）の二人にとっては初の海外です。福岡発着のツアーで名古屋空港からケアンズ経由でシドニーに到着し、乗り継いでスロバキア戦の行われるキャンベラに着いたのは16日の夕方でした。行きの飛行機は20時発ということで子供二人もおとなしくしていました。

17日、スロバキア戦は夜の試合だったので、朝から動物園（水族館付き）に行って生のカンガルーやウォンバットを見て、帰りに町により買い物をしてホテルに戻り、一度昼寝をさせてから試合会場に向かいました。キャンベラにはホテルが少なく、宿泊したホテルも郊外のいわゆるモーターホテルで、タクシーもなかなか来ない所だったのですが、町から帰りに乗ったタクシーの運転手の方が、「タクシーも今日はなかなかつかまらないからスタジアムに行くなら時間で迎えに行くよ」と言ってくれ６時30分の約束で迎えにきてくれて会場まで途中の名所をドライブしながら連れて行ってもらいました。冷え込むと言われた夜も、心配したほどではなくゲームに入り込んでしまうと寒さも忘れる様な状態でした。結果は既にご存じの通り２－１で日本が勝ちましたがわれわれの座った席は前から３列目の日本が得点を入れたゴール側のコーナーフラッグの近くで１点目の三浦のクロスボールは自分たちの方に飛んでくるような感覚でそこに突然誰か（中田英）が飛び込んできて、ゴールに入った瞬間に周りの日本人は一斉に立ち上がっていました。２点目はハーフウェーライン付近から高原がドリブルで独走しだしたためゴールを期待して立ち上がっていましたが一度ゴールキーパーに止められたあとに稲本が押し込んでの得点でしたが、得点を決めたあとわれわれのスタンドの方に走ってきてガッツポーズをすると盛り上がりは最高潮に達し、子供達も周囲の雰囲気にのって興奮していました。

翌日は、キャンベラからブリスベーンへ移動でブリスベーンのホテルには午後２時頃に到着しダウンタウンへ食事をかねて散歩に行きました。ブリスベーンの中心街にはエスニックレストランやチャイニーズレストランがあり、疲れと環境の変化で食欲がなかった就大もお米が食べられやっと食欲が戻ってきた感じでした。翌日（19日）は終日フリーでゴールドコーストへのバスツアーがあり、ワーナーブラザースのムービーワールドにいきました。バットマンと写真を撮ったりポリスアカデミーのショーを見たり十分に遊べたようです。就大はバットマン

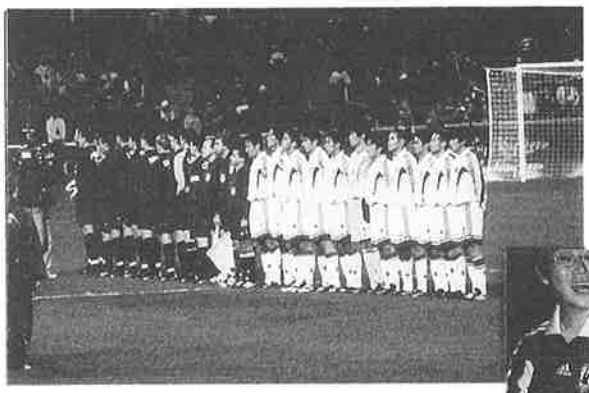
のお面とスーツを手に入れ大興奮でした。

９月20日、いよいよブラジル戦です。南アフリカ戦でブラジルが負けてしまったため、最初の予定では消化試合になるはずのゲームがグループリーグ突破をかけた厳しい試合（中田、森岡が出場停止と言うこともあり）になってしまいました。スタジアムの周りは大渋滞でやっとの思いでスタジアムに到着したところ、今回はゴール裏（日本が前半に攻めた方）の２階席でピッチ全体が見渡せる位置でした。就大は昨日買ったバットマンスーツに代表のシャツと言う格好で気合いを入れていったにもかかわらず、試合開始のキックオフ間もなく深い眠りに入り（この日は昼寝をしていなかった）、試合終了まで一度も起きることなくタイムアップを迎えてしまいました。試合途中でスロバキア対南アフリカ戦の途中経過が伝えられ、スロバキアが勝ったことが分かると日本のサポーター達は一様にほっとした様子で、結局負けたものの決勝トーナメント進出を決めました。

21日は最終日で、ブリスベーンにあるローンパインコアラ保護区に行き、コアラと写真をとりカンガルーに餌をあげ、タスマニアンデビルやウォンバットを生で見て楽しみました。

22日はケアンズ経由名古屋行きでの帰国になりましたが、飛行機が遅れ名古屋へ到着したのは、福岡へ移動する飛行機の出発30分前で、あわただしく入国審査を受け税関を通過し（スーツケース２個、バッグ２個、子供２人をカートに乗せて通過）航空会社が準備したバスで国際線から国内線へ移動し、やっとの思いで飛行機に乗り込みました。福岡に一泊し宮崎に帰り着いたのは翌23日（土曜日）のお昼前でした。

シドニーオリンピックを見に行きたいと思ってはいたものの、まさか家族４人でいけるとは思ってもいませんでした。まして医者になって、こんなに子供とゆっくり過ごす時間がとれるとは思っても見ませんでした。まだ２歳そこそこの子供が今回の旅行のことを覚えているかどうかは分かりませんが多分楽しい思い出ができただろうと思っています。（宮崎に帰り着いた日の夜、日本対アメリカの試合を見ながらテレビから“ニッポン”と聞こえてきた瞬間に涼香は手をたたいていました。）



ちょこっとインターネット

山　口　和　正

Part.1　不自由の在り所
―「肢体不自由」と高木教授―

医学部学生へのリハビリの講義で、「障害」についてまとめようとしたが、「障害とは何か」の出だしで躓いてしまった。答えを求めてインターネットを彷徨っていたら、「肢体不自由」という言葉と共に療育の父といわれる故高木東大名誉教授の名前が出てきた。不勉強を痛感したのは、「療育」という言葉だけでなく、「肢体不自由」という言葉も高木先生がつくられた造語だということ。ここで初めて知った。

“決して単に、世に不具、片輪などの語を余りにも蔑視的なりと嘆くものある故、これにこたへ、これに代わるべき用語として提案せるものではなく、「肢体不自由」なる述語によって、所与の定義、意義、範囲を劃するところの一新構想を表現する為に、かかる一新用語を提唱”された由。この間の事情は、青森県立はまなす学園の岩崎先生によると、“当時、高木先生の治療を受けていた橋本龍吾氏（苦学をされ、後に厚生大臣になり、整肢療護園の創設にも尽力される。橋本龍太郎元首相の父上）が、回診中に手足が不自由なだけなのに「不具」とか「かたわ」とか言われるのは心外だと言ったそうです。そこで、高木先生一流の天の啓示が閃き、「あーそうか。手足が不自由なだけなんだ」ということから、「肢体不自由児」と言う言葉を創られた”とか。さらに所与の「肢体不自由なる名称の意義」の中で、療育の目標がそこなわれた機能の恢復にある故、その対象の名称も、形態の異常の表現ではなく機能障碍を表現するものであり、その原因の所在箇所の表現ではないこと。また「肢体不自由は主観的の問題」であるとして、障害者自身の主体性を強調し、“「肢体不自由」なる名称は、決して肢体疾患（病名）と同義の語でない”と結んでいる。

第28回日本整形外科学会の宿題報告「脳性麻痺の治療とその効果」（高木憲次著）を前述の岩崎先生からコピーを頂き、読んで愕然とした。昭和20年代という半世紀も前に、今日脳性麻痺について言われているようなことが、既に詳細に記されている。しかも高木先生自身が、“ともかく面倒な映えない仕事である”とぼやきながらも、子供の傍らでしっかりとその生活に寄り添いながら記したものであることが随所に読みとれる。曰く、“一人で洟がかめる様になった時の悦びは想像にあまりあり。“就職上特に問題になるのは食事と用便である。巧拙ばかりでなく、その「所要時間が長いこと」である。“「電話の応対」が将来の社会生活への適応上からも大切である。“自尊心をそこなわないようにすることが脳性麻痺児には特に必要！“運動会にしろゲームにしろ、ルールに従う稽

古になる。“愛児を無知扱いするな！愛児を抱きその耳元で愚痴を呟く独り言、困った子だ将来どうなるか等の一語さえ諦念、自暴自棄に陥らせる力があることを銘記せよ。“わずかな進歩を看過せぬ事、且つ確かに進歩を認めたということを患児に示して安心させ、自信を持たせよ。“日常、返事がなくとも談しかけよ。反応も応対もなくとも事物の解説をしてやることに努めよ！”等々熱い言葉が続く。今日の一般的子育てへの警告としてもそのまま通用する内容であり、児の主体性を重んじ、脳性麻痺を「医療モデル」としてではなく、「生活モデル」と捉え、QOLを重要視している姿が鮮烈である。この中で既に、音楽療法や、短期目標設定・動機付けの重要性について言及してある。この50年間いったい脳性麻痺について、どれだけこの高木先生から遠くに来たのだろうと愕然とさせられた。しかも、克服法（訓練）の詳細な方法論を見ると、今日のように専門の訓練士、コメディカルスタッフが不在の中で、医師として孤軍奮闘の趣である。曰く「運筆の初期に、姿勢のあり方と用材を選定し、執筆時の上肢の肢位に就いて医師が、処方箋を指導員に提供指示せねばならぬ」。余りスタッフ不足を嘆くのは自らの怠慢かなと身が縮む。また「伝鈴習字機」、「覗きメガネ式アテトーゼ克服機」等高木先生自らが考案された訓練用具の名前を見ると、高木憲次ならぬカラクリケンジである。

昭和26年発行の「療育」創刊号では、“療育の責任者は国民すべてである。療育の支障となるものは迷信・無知・誤診と無関心である。精神的予防法として「隠匿する勿れ」運動を普及・徹底したい”等々、今日風に言えばノーマライゼイションへの行動指針が提唱されており、その実行力も並大抵ではない。それから半世紀の今、日本もノーマライゼイションをめざし、物理環境・社会制度・心のバリアフリーを掲げているが、やはり一番難しいのが心のバリアフリーといわれている。思想・思念が、既成概念・思いこみなどの束縛から解放され、自由に飛翔するのはそう容易なことではない。一番の不自由は肢体不自由児・者にではなく、我々の心に在りということになりそうだ。

追記：「障害とは何か」から、肢体不自由・高木教授と話題が飛んでしまい、その結果、私にとってはおもしろかったが、学生にとってはあまり興味のない講義になってしまったようだ。もっともネットサーフィンでこの程度の逸脱はまだましである。なかにはボクシングのストレートパンチについて調べていたら、いつの間にか美容室のホームページにはまりこんでいたという話もある。なるほど、パンチ（パーマ）もストレートもヘアスタイルである。先日は「発達障害」について追っていたら、行き着いた先が「バイアグラ」だった。バイアグラで生まれた子供が発達障害児になるということではないので、念のため。

Part.2　日常生活用具の給付
－ネットのおかげ－

ああ、またかと思った。「身体障害者手帳の書き換えをして下さい。脳原性運動機能障害で作られた手帳では日常生活用具が出ないからと書き換えを指示されました」。外来で何回か聞かされた言葉である。

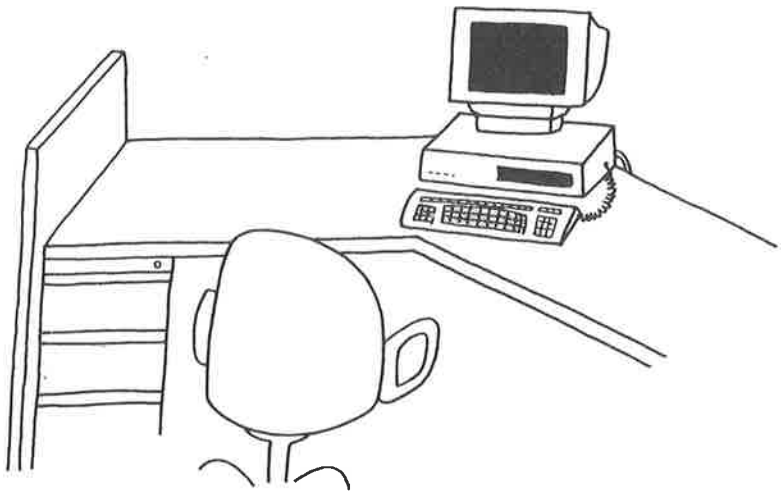
身障手帳による日常生活用具の給付について宮崎県の場合、18歳以下で、脳原性運動機能障害の場合は該当しないということで給付されない事態が続いている。場合によっては一般の障害診断書での手帳の書き換えを求められる。常識的に考えればすぐ分かることだが、身障手帳に基づく基本的サービスが障害に至った原因・原疾患で差が付くのはおかしい。年齢による差はあっても当然だが、等級・障害部位が同じであれば、原疾患は関係ないのが身障手帳の基本ではないか（もちろん疾患特有の事で＋アルファはあるだろうが）。この問題が生じる度に今までも何回か、県や市へ問い合わせたが、「国でそう定めていますから」といつも判で押したような返事ばかり。根拠は日常生活用具給付の注釈に、身体障害者には「脳原性運動機能障害の場合は、上肢・下肢又は体幹機能障害に準じ取り扱うものとする」とあるが、障害児にはその注釈がないからというもの。いつもそこで話がストップし、先へ進まないのが常だった。

だが今回は違った。最近はインターネット上に各自治体がホームページを載せており、いつでもそれを検索できる状況が整ってきた。いくつかの自治体の福祉関係のホームページには、そこに交付基準などを載せてある。者と児を合わせた同じ表が使われ、年齢制限は当然各用具によって異なるが、例の注はまとめて最後にあるだけである。ことさら児・者で別扱いをしている自治体は検索したホームページで見る限り、宮崎県だけである。これに勇気を得て、西日本肢体不自由児施設運営会議でアンケートにて各県の様子を聞いてもらうと、やはり他の施設では話題にもなっておらず、当然のこととして日常生活用具は給付されていた。これらの結果を添えて、宮崎市と県に再検討依頼の意見書を出した。さすがに今回は動いてくれた。その結果あっさりと誤りは訂正された（といっても何回か催促し一ケ月以上かかったが、行政としては異例の速さだ）。

「国の指針が間違っていたのであり、我々は間違っていない」というのが宮崎の行政の言い分である。今までにも何度も指摘したではないかと言っても「そのような声は聞いていないし、引継も受けていない」と言う。数年ごとに担当が変わる制度のもとで働いている行政としては当然の返事である。私がこの問題の責任者でも上司でもないし、自分が言った言わないで喧嘩することでもないが、他に主張してくれる人もいないので不本意ながら現場を代表して文句を並べた。国の指針は全国同じものが出回っている。仮に国が誤っていたとして、他の自治体では訂正されていながら、何故宮崎ではそれができなかったのだろうか。つらつらと考えてみた。まず国から示された指針に対し、これはおかしいと批判的に受け止める行政の経験と感性がない。上意下達で国に忠実な事をもって自らの立場としている。しかしこれは宮崎に特有なものではない（程度の差はあるが）。次に現場と行政をつなぎ、現場の意向を行政に伝えるシステム、あるいはポストの不在。我々のような医療福祉現場で働きながら行政との繋がりもある存在がきちんと現場の状況を行政に伝えなければならないのだが、残念ながらそのために割ける時間も機会も多くはない。むしろ余りにも現場と遊離した行政の姿勢に最近はいらつくことが多い。そして大人しい宮崎の県民性。「他の県ではできるのに、何故宮崎ではできな

いんですか?!」と、外来で詰問される時も、当然ではあるが、余所の状況を知っている県外からの転入者がほとんどである。余所の状況を知らないと、穏やかで争いを好まない宮崎人は「だめです」と言われれば大人しく引っ込むしかない。

しかし、インターネットという情報の玉手箱はこの閉塞状況を突き破る力がありそうだ。医療情報もしかり、稀な疾患でもインターネットで検索すると必ずと言ってよい程数十件はヒットしてくるし、患者・利用者の持っている情報量も飛躍的に増えた。医療情報の独占による部分の医者の優位性は崩壊しつつある。我々の日常診療にとっても、両刃の剣として無視できない存在である。



第11回日本臨床スポーツ医学会学術集会を終えて

学会担当　園　田　典　生

去る10月28日・29日の両日にわたり第11回日本臨床スポーツ医学会学術集会を当教室主催にて無事に開催することができました。開催にあたり、御支援いただいた同門の諸先生方には紙面を借りましてお礼申し上げます。また、当日に実務を手伝っていただいた教室員・関連病院の皆様にも感謝申し上げます。学会は28日・29日の２日間でしたが、ゴルフ・テニスのスポーツアクティビティを27日に開催したため医局の先生には前日金曜日から動いていただきました。本当にお疲れ様でした。

学会は今年シドニーで行われたオリンピックに関する話題を中心に特別講演・シンポジウムを企画しましたが、スポーツ医学はトップレベル・健常人のみが対象になる分野ではなく、日常の市民レベルのスポーツ活動で問題になる健康対策としてのスポーツ医学をシンポジウムの題として、また、パネルディスカッションとして車椅子スポーツをとりあげ幅広い分野にわたる積極的な討論ができたものと思っています。

九州圏内で初めて本学術集会が開催されたのですが、当初心配していた参加者数も598名（教室員・同門会会員を除外）であり、過去、地方にて開催された本会と遜色はなく安心しました。（予想外だったのはスポーツアクティビティの参加者が少なく、ゴルフは30組とっておりましたが結局1/3の11組でフェニックスの方にはご迷惑おかけしました。）

スポーツ医学関係の学会で本学会は臨床系の複数科の先生が集まり討論のできる学会の代表的な存在であり、宮崎で開催されたことの意義は大きいと思います。

ここまでは担当した者としての挨拶でした。

次に個人的な意見を述べさせていただきます。

『正直なところ、学会は自分の研究成果を発表に行くものである』と痛感しました。本会の準備を約２年前からはじめ、終了するとほっとするとともに会計報告などの雑務が現在も残ってます。「学会の準備をするにはその期間は自分が医者であることを忘れなければやってられない」。と述べたある大学の医局の先生がいたことを聞きました。また、２年前に当教室で開催した第25回日本臨床バイオメカニクス学会を担当された川越先生が「もう腹いっぱいです。ごちそうさまでした」。と述べられました。

今回はヒズブレインという事務局をおいての準備でしたので学会開催まではそこまではなかったのですが、当日の気苦労を含めると結構しんどかったです。今回で学会担当は最後だからと自分に言い聞かせてやってました。そう思い会計報告などの事務処理が終われば完全におしまいと考える一方で、来年から医局長（医局長就任に関しては本紙の別ページをごらんください）の大役をおおせつかった自分の立場を考えると、お腹がいっぱいになる前に吐きそうです。脊椎グループの先生、２年後がんばってね。

留学記

雪に覆われたとある大地の片隅にて

久　保　紳一郎

「年齢を経るに従い月日がたつのを早く感じるのは、現在の1日・1時間が過ぎ去った時間の何割に相当するかを脳が計算に入れているからである」。とは誰の説だったか忘れてしまいましたが、ともあれ、私ども家族が北アメリカ内陸部の田舎町Iowaに引越してから早10カ月が過ぎようとしています。

1999年10月に田島教授に留学を薦められ、貧乏人の子沢山を地で行く私にはやや荷が重いかなとも感じましたが、九州すら出た事のないド田舎者の私はありがたく行かせて頂く事にしました。この間、周りの先輩たちに温かい励ましを色々と頂き、自分にはそういう先輩方がいるというだけで幸福な気分になれました。

まず、家族を連れてくるのに先立って前任の鳥取部先生夫妻（ToToちゃん、元きんまるちゃん）に連れられて渡米し、生活に必要な数々の事務処理を一緒にしてもらったおかげで不安なくこちらでの生活がスタートできました。しかし、その後2〜3カ月間は数々の予期せぬ事態が続出し、長男からは「またYou've got troubleだね〜」。と他人事のように軽口をたたかれる始末。それでもなんとかなるもので、長男・長女は無事に学校・幼稚園に通い[*1]、　江戸末期の日本人のように外人を近くで見たことがないと怖がっていたカミサンも得意の開き直りで何とか日常生活をこなし、最近は英語の話せない友達を見つけるべく英会話初級クラスに通いストレス解消しているようです。さて、ここIowaがどんな所かは以前の同門会誌に鳥取部先生が詳しく書かれていますのでそちらを見て頂くとして、「Field of dreams」や「Madison 郡の橋」の舞台となった州と言えば、映画をご覧になった方はのどかな風景が想像できると思います。ちなみに、私個人としては、「ベイブ」に出てきた風景にそっくりと感じましたが[*2]。

仕事の方はこちらについてまず1〜2カ月ほどは実験見習・丁稚どんという感じでしたが、かつて福チャン先生に仕込まれた皿洗い3年の術[*3]が評価されたのか、その後割合スムーズに前任の先生の実験の続きを終えることができました。その後Prof.Goel と検討した結果、なんとか希望した頚部脊柱管拡大術の実験に取りかかることができ、ホッとした矢先に「どうやらGoel教授が転勤するらしい」。との噂が持ち上がりました。そうするうちに、一人また1人、と言う具合にstaff が抜けて、教室は私と一握りの学生のみとなりました。またまたI've got troubleか〜！と思いましたが、それまでの下働き（実験のお手伝い）が功を奏したのか、このころには自分1人で実験できるようになってました。そればかりか、脳外科の研究staff に手取り足取り実験の手法を教えるはめになり、いつのまにか丁稚どんが番頭はんになってました。（トホホ）

おかげさまで、今週実験はなんとかほぼ終わり、後はデータ解析のみとなりホッとしている

ところです。見知らぬアメリカ人の善意の献体によって得られたデータから、真実の一粒でも掘り当てることができれば…今回の留学はそれで満足と考えてますが果たして結果は？

閑話休題

教授には内緒ですが、出発前私には実験以外にもう一つ崇高な目標、いや極秘任務がありました。それは手術見学や英会話の上達、はたまた現代アメリカ社会の推考などでもなく、「鱒釣りの本場アメリカでブラピ*4 になりきること」あっ書いてしまった…。（ブラピファンの方がいたらごめんなさい）ということでこちらについてすぐIowa州内の詳細な地図を手に入れ、雪解けを待って密かに日本から持ち込んだ釣り道具を手に、近くの川を目指しました。ところが…近場の湖や川にいるのはブラックバス・スモールマウスバス、ホワイトバス、ナマズ、クラッピー、ウオーライ、その他馴染みのない珍魚達ばかり。それでも息子を味方につけるべく誕生日にルアー一式を買い与え、教え込みました。こちらの魚は私以上に呑気なため、初めてルアーを投げる息子にもけっこうHit があり、親子で笑い会う貴重な時間を作れました。ライントラブルの続出する息子は「紳樹はまたtrouble だからhelpして！」と泣きつき、このときばかりは父親らしく「自分のケツは自分で拭け！」と一喝し素直に努力してもダメな場合のみ「どれどれ、貸せ」とばかり教えてやり親の面目を保ちました。しかーし、私の目標はあくまでも雄大なアメリカの自然の中で華麗なloopを操り、trout と遊んでもらう事ですからこれで満足はしてられません。そこで、実験のできない時間に夏休みをかねてかのYellow Stoneに行ってきました。その顛末は書き出すときりがないのでまたの機会にということで…いやーRainbowちゃん、Brown君ありがとう！

それでは、この同門会誌が刷り上った頃には宮崎でお会いする事になるかと思いますが、素晴らしい機会を与えてくださった田島教授をはじめ励ましやご支援を頂いた先生方に紙面をお借りして深くお礼申し上げます。

Professor Goel と farewell lunch にて

無粋な脚注

＊1：長男は日本とアメリカで2回も幼稚園を卒業しており、まさにプロの幼稚園生！
しかしどうも最近日本語が怪しい。長女はsnack time（おやつ）にまんまとだまされ、上機嫌で通っている。どうやら幼稚園には言葉の壁はないらしい…。

＊2：「Field of dreams 」…ケビンコスナー主演の野球映画。
「Madison 郡の橋」…クリント・イーストウッド主演の恋愛映画（？）。ちなみに私は観た事ない。
「ベイブ」…子豚主演の農場映画。脇役のダックと犬が好演。

＊3：ほんとの皿洗いではなく、まずは実験そのものより実験器具や部屋をきれいに保つことを覚えるのが先決との教え。こう言った先人の一言は後になってから本当の意味が判ったり役に立つことが多い気がします。

＊4：ブラットピット　映画俳優
「River runs through it」・「Seven」・「12 monkeys」等に主演。
「River …」の中で彼の代わりに華麗なshadow castingを披露したのは fly fishing pro のジェイソン・ボーガー。

＊5：Professor （教授）の略。ちなみに釣り人のfly をすぐに見破る賢い魚を指してPh.Dと呼ぶ事があるが、なかでもcatch & release の徹底された、Yellow stone 周辺の鱒達は特に賢いとされ Professor と呼ばれている。

Professor Brown とMadison Riverにて。

Labの仲間達

新　規　開　業

津　曲　孝　康

同門会の皆様、平成12年７月17日に宮崎市神宮西２丁目に開業いたしました。診療所の周りは住宅地で静かなところにあります。どうぞ宜しくお願い致します。

開業するか、勤務医で過ごすか、いろいろと迷い、約三年前から考えて結論に達しました。しかし、どのようにして開業するのか、何から手をつけて良いか解らず、業者の方に相談になってもらい、まず場所探しからスタートしましたが、なかなかすぐに決まらず、約２年前に今の場所が決まりました。決まるまでは宮崎周辺の空き地に連れて行ってもらい、検討しました。場所が一番のキーポイントになりました。次に銀行から融資の受け方も解らず、いきなり融資課に行き、門前払いとなりどのようにして良いか解りませんでした。融資というものは具体的な場所、建物、その広さが解り計画書ができていないと無理である事が後から解りました。融資のメドが着き、設計事務所が決まると、建物が約五ケ月で完成しました。建物ができてくると、壁、床、建て具の色、カーテンの色、種類、部屋の間取りの大きさ、建物の外観の色、その他いろいろと決められた時間内に決定しなければいけません。どういう基準で決めたら良いか迷ったあげく、勤めている病院を始め、開業されている先生の建物を見学させてもらい、参考にし決定しました。院内を見せて下さった先生方ありがとうございました。

職員さんを探すのに、職業安定所を使いました。事務職、看護婦さんの応募をしたところ、看護婦さんは集まりにくく（時期的な事もあり）その中から選ぶのにどの人を選ぶのか苦慮しました。年令や容姿より経験を中心に考えて選びました。いままで選ばれる立場だったのが、今度は逆に選ぶ立場になり、約五分間という短い面接時間で話をし、人を選ぶのは生まれて始めての経験でした。選ぶのはくじ運みたいな所もあります。結局看護婦さんは、30歳代以上の方に決まりました。経験者だから良いというものでもなく、時々驚かされることがあります。ある時、診察していたら、看護婦さんの声が聞こえてきました。「あんた、長くこんやったね。奥さん、（ベットの）上に乗って気持ち良かったろ。奥さんより恐い人はおらんから、大丈夫」。とどこかの井戸端会議的な話が聞こえてきて、愕然としました。とんでもない人を入れてしまった事に反省させられ、これからどうすれば良いか考えさせられました。いきなり辞めてもらう事もできないし困りました。そこで接遇研修をやらなければいけないと思い、早速、教科書、ビデオを使い、今でも続け学習しています。

少しずつ効果が上がっているようです。また、雑用で毎日頑張ってくれているのは家内であり、１人で開業は難しい事をひしひしと感じています。

ところで、患者さんは、朝早くからこられるものと考えていました。しかし、開業して分かった事は、10時過ぎころに集中して来られ、また、夕方５時頃に来られるということです。張りきって朝患者さんを待っていると、来られるまでの時間が長く、勤務医の頃とは正反対になっています。宮崎市内とのこともあり、患者さんはなかなか来てくれません。来てもらうのではなく、どのようにすれば、患者さんの期待に応えられる診療所作りができるのかを考えています。自分を始め、看護婦さん、事務員さんと日々向上心を持ちながら、より良い医院作りに努力して行きたいと思います。これからも同門会の先生方には御迷惑をかける事があると思いますが今後とも宜しくお願い致します。

開業して…

taniguchi
orthopedics
surgery

谷口博信

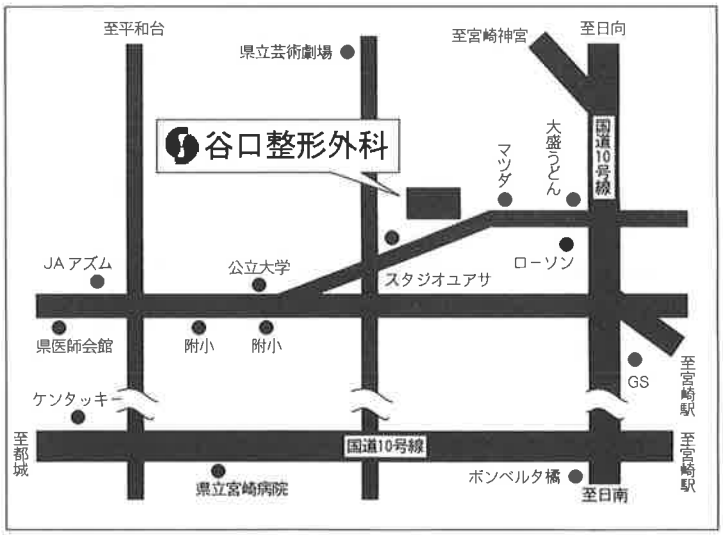
昨年の７月７日に宮崎市の丸山に「谷口整形外科」を開業させていただきました。彼の地は父が昭和58年に他界いたしますまで、１０年間医業に携わっておりました縁の場所であります。周囲には同門の諸先輩方がいらっしゃいますので、無床のクリニックを営むものといたしましては心強い限りです。

開業にあたっての診療理念は、１）心かよう優しい医療をおこない、２）そのような医療行為を実践することによって自己を高め、３）その総和として地域社会に貢献できるように努める、ということです。根幹となる「心かよう優しい医療」とは「癒し－healing －」に通じます。これをテーマに作成した当院のシンボルマークは、両手で包み込むイメージを表現したものです。スタッフには整形外科の勤務経験がない方を優先し、当院の診療理念に共感していただける方を採用させていただきました。開業して半年が過ぎましたが、おかげさまで大過なくやらせていただいております。

開業して一番うれしいことは、やはり患者さんが来てくださることです。勤務していた頃は患者さんが増えていますよとスタッフに励まされても、所詮はその病院の看板に守られているのだという思いがあり、実際自分自身の診療というものがどれだけのものなのか、不安に感じることがありました。今回開業して患者さんが徐々にですが来てくださるのをみると、私どもを頼って来てくださっているのだと自負しながら診療に当たることができます。これは何物にも代え難い喜びです。と同時によりいっそうの責任を感じております。

開業して変わったことは、当直がなくなり、休日が少なくなったことです。開業直前まで勤務していた父方の実家で、開業後も日曜日の午前中は診察、午後に手術をさせてもらっております。当院でも局麻や伝達麻酔でできる小手術はおこなっておりますが、入院施設がないため症例は限られます。開業後もいろいろな症例の手術に携われるのは外科医としてはありがたいことと思っております。

開業してわかったことは、本当にいろいろな方に助けてもらいながら生きているのだな、ということです。今更ながらですが、つくづくそう思います。私の提案したコンセプトを見事に具現化してくださった設計・建築の方々、貸し渋りが騒がれるなか気持ちよくご支援下さった金融機関の方々、開業後も全面的にバックアップしてくださる自治会の方々、いろいろとわからないときに気軽に何でも教えてくださる同門の諸先生方、創業以来私とともに頑張ってくれているスタッフ諸姉、いつもそばで励ましてくれる家族の面々…。みなさん、本当にありがとうございます。そしてこれからもどうぞ宜しくお願いいたします。


至平和台
県立芸術劇場
至宮崎神宮
至日向
谷口整形外科
大盛うどん
マツダ
国道10号線
JAアズム
公立大学
スタジオユアサ
ローソン
県医師会館
附小
附小
GS
至宮崎駅
ケンタッキー
至都城
国道10号線
県立宮崎病院
ボンベルタ橋
至日南
至宮崎駅

野球大会報告

西日本野球大会を終えて

一軍キャプテン　福　元　洋　一

今年の4月に神戸で行われた全国大会では名古屋市立大と対戦し、松岡先生の好投むなしく2対2の引き分けに終わり、惜しくもジャンケンにより2回戦には進出できなかった。

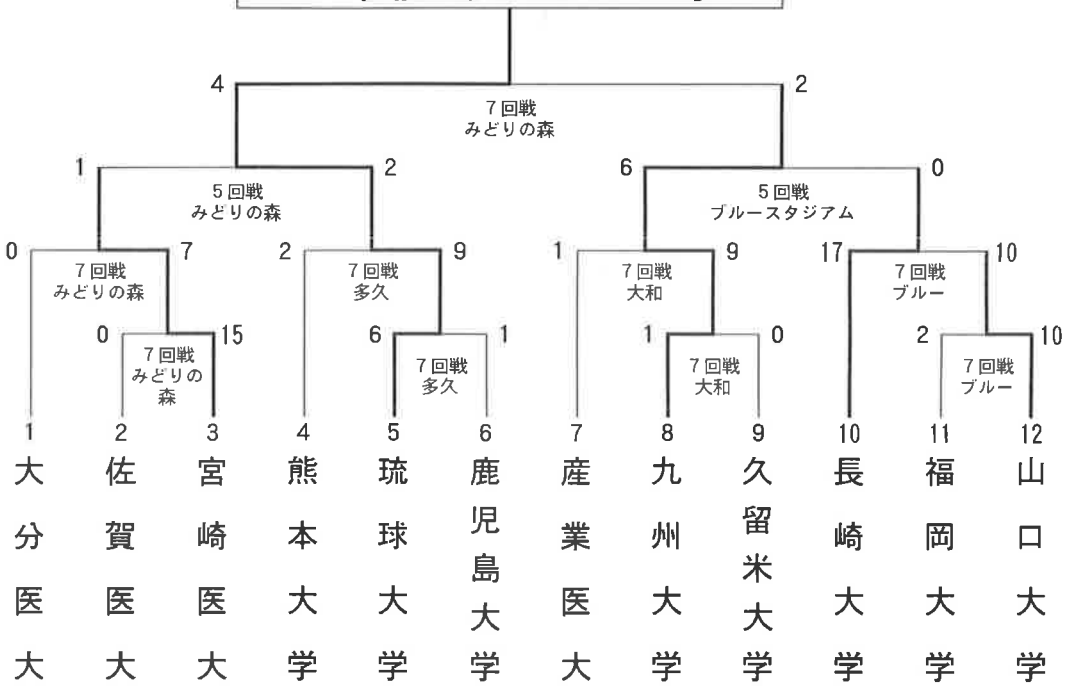
全国大会の雪辱を期すべく新戦力の小薗先生を加え、来年の全国大会の出場権をめざして大会にのぞんだ。今年の西日本野球大会は8月6日に佐賀で行われた。前日のレセプションでは、田島教授が右肩を痛めながら、ストラックアウトに出場して盛り上げていただき、抽選では1回戦からの出場となった。

1回戦は佐賀医大と対戦した。初回から打線が爆発し、ヒット・フォアボールを集中させ12点をあげた。投げては安藤先生・矢野先生のリレーで相手打線をノーヒットノーランに抑えて15対0と大勝した。2回戦は長年のライバルである大分医大と対戦した。勢いに乗る我がチームは2回に先制し、その後も小刻みに加点し、投げては石田先生が右膝を負傷しながらも牽制死など巧みな投球で相手打線を0点に抑え、以前ほどの力が見られない大分医大に7対0と快勝した。

全国大会まであと1勝とせまった準決勝は琉球大学と対戦した。力が拮抗しているとはいえ最近は敗けていない相手である。前半は松岡先生の好投もあり、お互い譲らず0対0であった。均衡が破れたのは3回で守備の乱れもあり1点を先制されてしまい、4回にも1点を追加され2対0とリードされ、最終回を迎えた。松元先生・石田先生の連打でチャンスをつかみ、フォアボールなどで1点を返し、なおも2死満塁と攻め、松岡先生の当たりはライナーでセカンドの頭上を越えるかと思われたが、セカンドのファインプレーに阻まれ万事休す。決して実力で敗けていたわけではないが、勝利の女神は我がチームには微笑んではくれず、今年の夏は終わってしまった。

来年こそは全国大会で田島教授を胴上げできるようにみんな一致団結して頑張りたいと思います。応援のほど宜しくお願いたします。また最後に、今年も野球大会では関連病院の先生方には御協力いただき誠にありがとうございました。

一軍優勝　琉球大学


4
2
7回戦
みどりの森
1
2
6
0
5回戦
みどりの森
5回戦
ブルースタジアム
0
7
2
9
1
9
17
10
7回戦
みどりの森
7回戦
多久
7回戦
大和
7回戦
ブルー
0
15
6
1
1
0
2
10
7回戦
みどりの森
7回戦
多久
7回戦
大和
7回戦
ブルー
1 大分医大
2 佐賀医大
3 宮崎医大
4 熊本大学
5 琉球大学
6 鹿児島大学
7 産業医大
8 九州大学
9 久留米大学
10 長崎大学
11 福岡大学
12 山口大学

二軍キャプテン　坂　本　武　郎

何の因果か陰謀か、噂のままキャプテンに任命？されはしたものの、それぐらいで急に早起きできるようになるわけもなく、キャプテン会議や医局員への連絡も陰のキャプテン渡邊Drがそつなくやってくれ、いよいよ野球大会をむかえた。

前日の抽選では、例年通り帖佐Drがはずれくじを引き当て朝一番からの試合となった。

今年より弁当、ジュース等を自分らで用意しなければならず、また各球場間の距離があり移動にもかなり苦労した。

1回戦は大分医大との対戦。早起きには慣れている我がチームは初回より打ちまくりの走りまくり、12対６と無難に２回戦へとこまを進めた。

２回戦の相手は産業医大。ちょうど体も温まってきた我々に、１回戦シードでさっきまで寝てたチーム（本当はうらやましい）は敵ではなく、後藤啓輔Drの公式戦初登板とは思えない見事なピッチング（予想外？）もあり24対１と圧勝した。しかし、気温もかなり上昇してきており、ここまでベースを何周もすると少し疲れてしまったというのも事実。

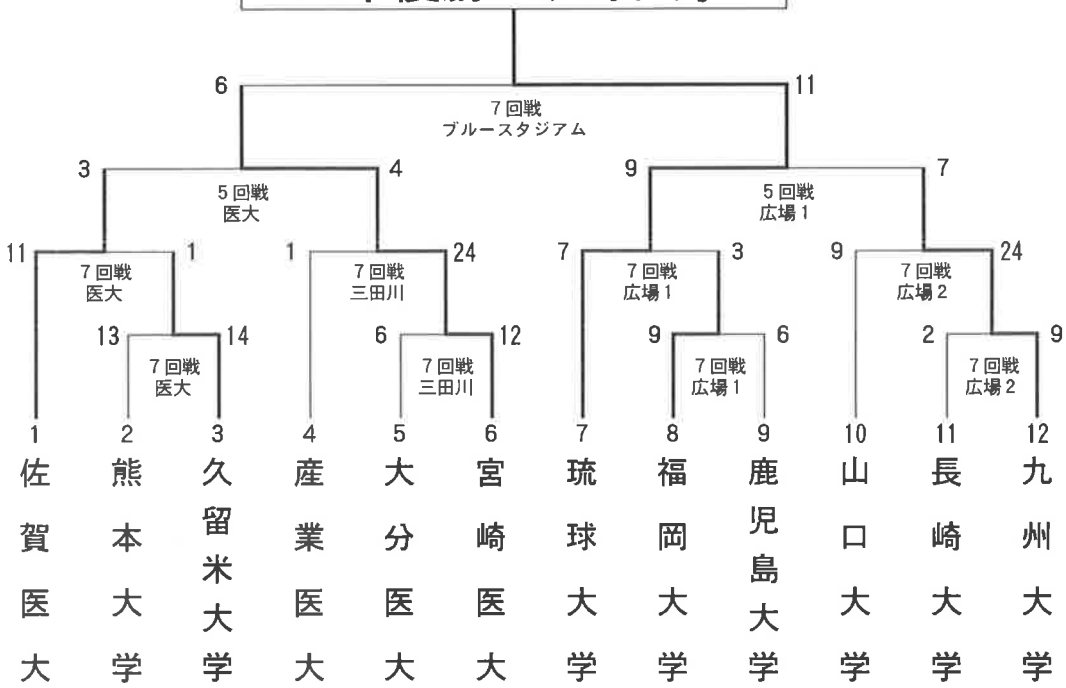
準々決勝は佐賀医大グラウンドで佐賀医大との対戦。かなりの移動距離があり、また弁当が前のグラウンドに届いて遅れるなど、ややハンディを負っての試合となった。

そのためか（？）、予想以上の苦戦を強いられ、少し疲れの見えてきた主力選手を温存する余裕もなく、４対３と辛くも決勝進出を決めた。

決勝の相手は琉球大学。すでに１軍が琉球に敗れたという情報が入ってきており、こっちまで負けたら大変（いろいろと）という気持ちも強く、かなり気合いの入ったプレイボールとなった。しかし疲れがピークに達してきた体がなかなか思うように動いてくれず、苦しい試合展開となり、終盤の追い上げおよばず、６対11でゲームセット。琉球にアベック優勝をゆるしてしまった。

来年は、日頃の行いを皆よくして1回戦シードをとるか、1・2回戦で何とか主力を温存して（1・2回戦でむやみに盗塁しまくらないのも大切）、ぜひＶ奪還を目指したいと思います。関連病院の先生方には、またいろいろと御迷惑かけると思いますが、よろしくお願いします。

二軍優勝　琉球大学


6
11
7回戦
ブルースタジアム
3
4
5回戦
医大
9
7
5回戦
広場1
11
1
7回戦
医大
1
24
7回戦
三田川
7
3
7回戦
広場1
9
24
7回戦
広場2
13
14
7回戦
医大
6
12
7回戦
三田川
9
6
7回戦
広場1
2
9
7回戦
広場2
1 佐賀医大
2 熊本大学
3 久留米大学
4 産業医大
5 大分医大
6 宮崎医大
7 琉球大学
8 福岡大学
9 鹿児島大学
10 山口大学
11 長崎大学
12 九州大学

平成12年同門会ゴルフの報告

平　川　俊　一

同門会忘年ゴルフ大会は、宮崎市青島の丘陵側にあります青島ゴルフコースで参加者16名にて行われました。週間天気予報では当日だけが雨の予報でしたが、前夜の忘年会の小雨が嘘のように晴れ渡り、参加者の熱い願いが天に届きました。ベストもセーターも不要な暖かい気候で、私も一日半袖のポロシャツでプレーしました。このような良いお天気は同門会ゴルフでは始めてだったのではないでしょうか。

世話人の私が到着しました時には過半数の先生方は既に到着済みで、前夜のアルコールを消そうと練習場でしっかり打ち込んでいる最中でした。特に渡部正一先生、山本惠太郎先生、田爪陽一朗先生が三人並んで練習されている後ろ姿は、近づき難い雰囲気をかもし出しておりました。

恒例の記念撮影の後、河野会長、田島教授の組を先頭に各組ごとにスタートしていました。当コースは池、クリークにセパレートされており、なかなかの難コースのせいかあちこちで悲鳴、ポチャという水の音、ボールのあげる水しぶき等入り交じって賑やかなコンペでありました。かく言う私も池ポチャ２回の有様でした。優勝は、練習量も多く最近進境著しい園田典生先生（トータル96、イン48、アウト48、ハンデ30）でした。優勝者の弁によると、やはり練習が一番大事だそうです。ベストグロスは帝王復活の噂が聞こえてくる三股恒夫先生（トータル80、イン40、アウト40）でした。各賞受賞者の中でもキラッと光ったのは、ドラコンを二つとも制した怒れる薩摩男児、帖佐悦男助教授、日頃の仕事の自棄をボールにぶつけたのか、はたまた他のホールのショットを全て練習に当ててドラコンに全てを賭けたのか、すばらしい長距離打者健在でした。トータルスコアは武士の情けで公表致しませんが、いや公表できません。

会員の成績を分析しますと、80台２名、90台５名、100台４名、110台３名、それ以上１名でありました。飛行機の都合でハーフで帰られた渡辺雄先生が、前半で36を出されたことを付け加えておきます。この成績から来年はリベンジを含め更にたくさんの参加者が予想されます。

表彰式の後に解散となりました。最終組が上がる時には既に辺りは暗くなりかけ、薄墨色になっておりました。いくら天候に恵まれてもやはり冬の日暮れの早さを実感させられました。遠来の先生には帰途大変だったと思いましたが、来年は工夫をしまして行き帰りの交通にも御迷惑がかからないように、またもっと盛り上がる会にしたいと思います。

最後になりましたが、玉井前学長より御寄付をいただきましたので、ここでお礼を申し上げます。

平成12年同門会テニスの報告

川　野　啓一郎

秋のやわらかい日差しの中、運動公園にて第３回同門テニス大会が行われました。勝ゲーム数をポイントに優勝を争いましたが、熱戦が続き、結局最後のゲームで松本英裕先生が逆転優勝を決めました。

今回は新規開業の、谷口、津曲先生も参加して頂き、総勢８名となり、ケガの無い、適度の範囲で、良い汗をかきました。

来年は、更に多くの先生方に参加して頂きテニスの輪をひろげていけたらと願っております。奮って御参加下さい。

〈参加メンバー〉

尾田、神薗、川野（啓）、谷口、谷畠、津曲、福田、松本（英）

埼玉医科大学麻酔科

川　野　彰　裕

麻酔研修の関連病院として平成11年７月より、埼玉医科大学附属病院麻酔科に出向できるようになりました。河野先生、石田先生に引き続き、私は平成12年８月より勤務しています。

埼玉医科大学附属病院は私立の病院で（病院内にマクドナルドがあります）もちろん埼玉県にありますが、大宮や浦和などにはありません。入間郡（いるま）毛呂山町（もろやま）というところで、埼玉県西部に位置します。秩父の方角で、東京の池袋から私鉄を乗り換えて約1時間かかる、とてもとても自然のたくさんある場所です。夜は清武町より静かなところです。

そんな立地条件のため、周りに大きな総合病院がなく、一日中、救急車のサイレンが絶えることがありません。まるで市郡医師会病院と大学病院をミックスした印象を受けます。

麻酔科は松本勲主任教授のもと医局員18人と、院内や院外のローテーションの先生（約７、８人）が加わり症例に対応しています。（12月から人数が減り、ちょっと大変）１日約20症例の麻酔科依頼があり、また急患が３例程度は必ずあります。当直は３人体制ですが、野戦病院であるため、ゆっくり寝ることはあまりありません。今年は12月１日現在で4500例を突破しました。ちなみに（祝）4000例目は私が主麻酔医でした。そんなめちゃくちゃ忙しい病院ですが、みんな明るく楽しく症例をこなしています。医局は、陽気な中村信一医局長（“麻酔がいいと手術は早く終わるんだよ！”が口癖）を中心に、外科系にはない、和やかな雰囲気があります。毎日８時からその日の症例カンファレンスを行いますが、麻酔の準備のため、だいたい７時には出勤します。また、整形外科や心臓外科のクリーン室での症例は７時30分入室のため（通称、おはようクリーン!!）７時前には準備に取りかかります。私も整形外科の症例があたることが多く、最近ではいつ雪が降ってもいいくらいの寒さの中、朝６時ごろ自転車で出勤しています。南国育ちの私には身にしみる寒さです。

そんな感じの麻酔科ですが、心臓外科以外ほとんどの症例の麻酔を担当し、また、急患もたくさんあたるため、さまざまな麻酔導入、挿管方法を勉強できます。自分の寿命を縮めるような症例も担当するため、毎日がジェットコースターに乗っているのような一日です。この半年間はどっぷりと麻酔につかれるような気がします。本当に多忙な毎日ですが、充実した研修のできる関連病院です。

えびの市立病院整形外科

谷　畠　　満

平成12年７月より、整形外科の初めての常勤として勤務しております。病院は人口２万６千人のえびの市の飯野という地区にあり、病床は現在40床で近々10床増床の予定です。現在外科医２名、内科医２名、整形外科医１名が常勤で、その他に週２回耳鼻科が午後の外来診療となっています。

診療は月曜から金曜日で、平成13年１月よりは土曜診療が部分的に始まる予定になっています（整形外科はまだです）。

午前中は外来診療が毎日あり、午後は病棟回診や手術をして、また週に１回全科外来があります。外来はほとんどが高齢の患者さんなので変性疾患が多く、忙しいときは朝８時半から昼は１時ごろまで休みなく診療が続きます。手術に関してはまだＣアームがないので症例が限られており、小林市の前原東洋先生に紹介させていただくことがありますが、１月にはＣアームと牽引手術台の購入予定ですので、これからは症例を増やして頑張りたいと思います。また隣の加久藤という地区にあるえびの整形外科から入院患者さんを紹介していただくこともあり、連係して診療を行っています。

また救急指定病院なので、夜間当直のときにいろいろな疾患を診ることが多いです。しかしなぜか私が外傷を診ることは少なく、冷や汗をかきながら頭部疾患や循環器・腹部疾患など苦労して診療しています。

赴任して約半年が過ぎたのでようやく病院に慣れてきましたが、なんと言っても“えびの弁”が難しく、最近なんとなく患者さんの話していることがわかるようになりましたが、それでもまだ半分ぐらいしか理解していない気がします。特に高齢の患者さん相手では、外来の看護婦さんの通訳なしには診療ができないこともあり、助けてもらっています。

また余談ですが、私が住んでいる医師住宅は病院の敷地内にあり、近所に銀行や郵便局やスーパーがあるので非常に便利ですが、周囲には畑や水田が広がり、夏は家の中から外から虫だらけでかなり悪戦苦闘しました。また床下には大きいへびも住んでいるらしく（抜け殻がよく落ちている）、そのうち小さいかわいらしいへびが出てくるようになったので、卵が孵ったのではないかとドキドキしています。

最後に、今後も困難な症例などを諸先生方に紹介して御迷惑をかけることが多々あると思いますが、御指導よろしくお願いいたします。

夫を語る

第２回目は、宮崎市郡医師会病院に勤務しておられる神薗　豊先生の奥様にお願い致しました。

何を書いたらよいのか随分悩みましたが、2001年２月22日で結婚15周年を迎えるにあたり、今まであまり示したことがない感謝の気持ちを書くことにしました。「今まで我侭な私、そして３人のかわいい子供たちを支えてくれて有り難うございました。これからも宜しくお願いします。」と、夫の気分を盛り上げたところで夫について書きたいと思います。

（外　見）

俳優で言うと古屋谷雅人さん、野球選手で言うと以前阪神にいた池田選手に似ていてダンディーでカッコイイと、よく言われています。が、「人間シャコタン」と言われているのも聞いたことがあります。

（性　格）

大変我慢強く、意志が強いです。この点については家族そろって尊敬しています。タバコをやめるときも、減量を実行した時も一度自分がこうしようと決めたことは必ず実行します。禁煙した８年前は１日30本以上吸っていたタバコをきっぱりとやめました。減量した４年前も80kg以上あった体重を食事と運動で60kg台まで落としました。周りの誘惑に負けず自分の信念を貫いたのは本当にすばらしいことです。

（特　技）

たぶん夫は「ゴルフ」「テニス」「釣り」といった項目を挙げると喜んでくれると思いますが、敢えてここでは挙げません。家族が声をそろえて挙げる夫の特技は「料理」です。一番家族をうならせる料理は、買ってきた魚（ときどき釣った魚）を自分でさばき、お寿司を握ってくれた時です。また、ペペロンチーノをはじめとしたイタリア料理は絶品です。でも、何をやっても器用な夫はそれなりになんでもこなしてしまいます。

（子供たちから見た夫）

長男……「お父さんの考えは古い」。なぜか、長男にはとっても頑固親父です。

長女と次女……「お父さんは優しい」。とにかくお父さん大好き。お父さんの帰りを毎晩心待ちしています。

以上、夫についていろいろと書いてきましたが、毎晩遅くまでお仕事ごくろうさまです。医者の不養生と言われないように、くれぐれも体には気をつけて下さい。

認定医試験を終えて

濱　田　浩　朗
HAMADA　HIROAKI

去年の1月にお台場で試験を受けてまいりました。1年を振り返ると、

・1月　来年は認定医試験だぞと思い、この際取りこぼしのないように、Campbellを読破しようと思った。

・2月　Campbellに取りかかる前にクルズスにしようと思った。（大学院はそれほど暇ではない、という意味です。くじけたわけではありません。）

・3月　クルズス読破、Campbellなんかより、チャート式化学を読め！と怒られる。

・4月　本格的にAdrenomedullinスタート（読者の皆さん、私は実験君です。ちなみにAdrenomedullinとは我が大学で発見された降圧ペプチドです。ごく一部の人は私のことをメジュリン君と呼びます。）

・5月　Radio－immuno－asseyとHPLCの技術を確立と、いうよりか習得。

・6月、7月　忘れもしないこの時期は認定医の申請書類をそろえながらウシの軟骨を削りに屠殺場に通っていました。驚く無かれ！30頭×4本＝120本×20分＝2400＝40時間費やしました。このため、保存の必要性から、教授に液体窒素用の容器を買っていただきました。

・8月　何度やっても結果がでないのでreceptorを調べたらウシの軟骨にはreceptorが無かった！バカヤロ～

・9月　教授が怒って呼んでいるとのことで、急いで教授室に行くと、不本意にも書類が返ってきていた。もちろんS月君のもです。（弁解するようですが、症例が実在していることを示すためにカルテの表紙を添付しなければならないのですが、1枚抜けていたらしい。恐らく閉じるときにスリ落ちたのだと思うのですが……。全部抜けていたS月君は平然としていました。）

・10月　この段階でS月君は3回、K添君は1回、N辺君は0回Q＆Aを終わっていた。S月君は田舎回りが長く、なんと、4年目の頃からやっていたらしい？（暇でやることがなかった……本人談）K添君はまじめなので予想どうり、N辺君は、期待を裏切らないいいやつです。

・11月　やっと半分くらいにさしかかったところ、Kちゃんに“濱ちゃんのQ＆Aは表紙が違うね、改訂されたんだ！”と言われ、よく見ると7年も前のQ＆Aを使っていた。（考えてみると、これは天草で植村先生にもらったんだ！）どうりで問題が少なく、間違いが多かったんだ！笑いのネタにされそうだったので平静を装いました。

・12月　僕は大学院生でよかった！基礎はほとんど解けたことと、十分な時間がとれたこと、ほとんど1日中勉強した。……1回目終わり。この時期はN辺君以外とは話をしなかった。

・1月　密度の濃い1回目だったので1週間前までに4回通ることができた。この時点で合格を確信。本番でS月君に3問も負けたのが悔しか

ったのと、口頭試問の後、S月君と一緒にパチンコにいって5万も負けたのが悔しかった。（これは、5月のリウマチ学会の発表前夜に取り戻しました。）

以上が1999年、いつ世界が終わるのかと心配しながら過ごした受験生でした。ちなみに今は卒業できるか心配です。……何か、あべこべ？

塩　月　康　弘
SHIOTSUKI YASUHIRO

ペーパーがなかった私に手ほどきして下さった帖佐先生、園田先生に感謝しております。試験前日、ホテルでヤマを教えてくれて、それがまた見事に適中していた濱田先生に感謝しております。

これまで御指導していただいた田島教授に感謝しております。

そして全面的にバックアップしてくれた妻に感謝しております。

川　添　浩　史
KAWASOE　HIROSHI

あっちこっちの病院にレントゲンとカルテを借りに行き、証明書の依頼をしました。睡魔と戦いながら勉強し、高い交通費と宿泊費を払って高い受験料を払って試験を受けました。そして無事合格し、紙をもらいました。認定試験って……。

梅雨真っ盛り、日南病院への赴任を言い渡され、こりゃ認定医試験の提出症例の準備をしてる暇は無いだろうなと、僕の心も梅雨空でした。早速開始し7月の異動までにどうにか準備できました。実際これは正解でした。これから試験を受ける先生方、症例提出の準備はいくら早くてもいいのでお早めに。

次は、ペーパー試験の勉強でした。僕の体は勉強に不向きに設計されていて、机の前にすわり本を開くとほぼ同時にスイッチが入り、自動的に眠くなります。日南病院での精神的疲労と肉体的疲労と勉強に不向きな体質が、容赦なく僕の勉強の邪魔をするのでした。そんな僕を励まそうと、当時3歳と4歳の娘と息子が、勉強を始めると背中に登ってジャングルジムの代わりに使ってくれたり、本の頁をお構いなしに進め

てくれたり、丁寧に至るところアンダーラインを引いてくれたり、とっても協力的でした。内助の巧もありました。僕が勉強につらそうにしていると、気分転換をさせてあげようという配慮のもと夜とっても遅い時間でもビールを買いに行かせてくれるのです。その上、お酒が全く飲めない僕の代わりに、買ってきたビールが無駄にならないよう全部飲んでくれました。

そんな恵まれた環境の中じっくりと勉強に取り組む事ができ、めでたく試験の日を迎えました。試験自体難しかったような印象を受けたのですが、翌日模範解答をいただき自己採点の結果、マークミスさえしていなければ合格できるだろうと言う点数を一緒に受けた4人が取っていたためほっと胸をなでおろしたのでした。

認定医になってみてちっとも名医になったわけではありませんが、穴だらけだった自分の知識に対し少しは刺激が与えられたように思います。まとまって勉強する機会は自らの意志ではなかなか与えることはできず、その意味では無意味でなかったと思えています。

今後、実のある認定医となれるよう勉強を続けたいと考えています。諸先生方、引き続きご指導宜しくお願いいたします。

野　辺　達　郎
NOBE　TATSURO

認定医試験が終わり10カ月が経ちました。合格はしましたが試験当日まで全く自信というものがありませんでした。反省点としては問題集への取り組む時期が遅かったこと。一通り終わってみると試験まで2週間ぐらいしかなく、繰り返してみると忘れていることも多く、焦りの原因となりました。

やはり余裕を持って始めるべきでした。

口頭試問では小児の上腕骨顆部骨折、RAのTKRについて問われました。内容は教科書的でなくインフォームド・コンセント、あなたならどう対処するかというものでした。

最後に、認定医になったとはいえまだまだであり、今後更に努力が必要だと考えています。

厚生係と医局旅行

厚生係長　矢　野　浩　明

2000年1月に6年6カ月の歳月を経て大学勤務となり与えられた役職は厚生係だった。諸先輩方より、「医局旅行と宴会の計画をすればいっちゃが」と言われ、あと忘年会を残し、その役を全うすることになった（2000年12月15日現在）。

恥ずかしながら今までの厚生の明確な意味を知らなかったので辞書ひいてみることにした。そこには『健康を増進し、生活を豊かにすること。』と書いてあった。宴会や医局旅行でみんなが健康増進できたかどうかは疑問ではあるが、少しでもストレス発散等できていれば幸いです。ところで本当の原稿依頼は「医局旅行について」ということだったので本題に戻ります。

2000年の医局旅行は三井グリーンランド近くのセキアヒルズに9月23日～24日の日程で行きました。時期はまさにオリンピックで盛りがったあの時期で、9月23日の夕方はサッカーの決勝トーナメント対アメリカ戦があり、宴会の時間を終了時間にあわせて設定したものの、更に延長戦に入ったため宴会開始が遅らせなくてはいけないかなとおもいきや、熱烈なサッカーファン1名を除き皆空腹には勝てず、宴会開始となった。宴会では、秋の夜空に輝く線香花火が催され、大人には好評だったが、なぜか子供たちには不評だった。

翌日は高橋尚子の金メダルへの激走で目覚め（一部夜更かししすぎや早朝チェックアウトで見てない者もいたようだが）朝食後解散となった。自家用車に分乗をいう形の旅行で自由ではあったが、大勢で一緒に行って一緒に帰るという旅行も久しく行っていないので、そういうものもいいかなーと後になって思っている次第であります。

今回は総勢26名の中規模旅行でありましたが、来年はもっとたくさんで、行けたらいいと思います。

新入会員紹介（賛助会員）

三財病院 整形外科　**松　本　英　裕**

生まれ故郷で地域医療に貢献したいと願っていた折、三財病院院長 相沢潔先生にチャンスをいただき、宮崎に帰郷して早や１年半が経ちました。

産業医科大学を卒業後、同大学整形外科学教室に入局しました。産業医大と労災病院は共通した目的を持って、研究、教育、診療にあたっており、これまでに、岩見沢労災病院（北海道）、青森労災病院（八戸）、神戸労災病院等の労災病院を中心に計９カ所の病院に勤務してきました。

どの土地に赴任しても、整形外科の知識や技術はもとより、語学力を求められてきました。もちろん、英語やドイツ語ではありません。南部弁（八戸）、関西弁等です。特に、青森労災病院に至っては、外来診療時に、看護婦さんに同時通訳をお願いしていた程でした。

海外留学同様、言葉を聞いているうちに、自然に相手の言わんとすることが分かるようになり、そのうち、それらしい言葉をしゃべることができるようになったのですが、南部弁が役に立つことは、これから先もないように思います。

これまで、方言で困ることの多かった私には、宮崎で宮崎弁を話し、細かいニュアンスまで読み取ることができるということは、「医は技術」はもちろんのこと、「医は人術」を大切にしております私にとりまして、診療上、大変重要かつ有用なことであります。

これからも、愛する宮崎のため、地域医療への貢献と充実に諸先生方と共に、尽力していきたいと思っております。

医療法人三省会 倉内整形外科病院　寳　亀　玲　一

平成11年11月同門会総会において賛助会員の御承認をいただき誠にありがとうございました。平成６年来医局の先生方には大変お世話になっており、もっと早く入会させていただくべきでありましたが、平成11年６月に新病院に移転したのを機に入会させていただくことと致しました。

当院は昭和35年初代理事長、故倉内省三が妻の実家である丸田病院に整形外科を併設開業したのが始まりです。当時は整形外科の需要は少なく閑古鳥が鳴いていたそうです。数年後には日本の高度成長と共に交通事故等が急増するようになり、医師会病院や脳外科も無く夜中に２度、３度と起こされるのは普通で超多忙となったと聞いています。病院のたらいまわしが頻発し医師会や病・医院がマスコミから叩かれるようになったのはもう少し後になってからのことです。軍人時代に培われた気力、体力で乗り切ったと後に述懐しています。

その後、昭和48年倉内整形外科病院を独立開業（60床）、昭和55年より小生が診療に加わり、昭和57年日整会認定研修施設取得、昭和58年医療法人化し、二人で頑張ってまいりましたが、医療状況の変化や医療の高度化、専門化に対応するには限界があり、教授にお願いをして、平成６年より医局の先生方に御協力をいただくようになった次第です。

しかし、病院が老朽化し手術室も貧弱で麻酔医もおらず、先生方には誠に申しわけないと前理事長は兼々申しておりました。そこで思い切って新病院を作ろうということになり、幸に近くに適当な土地を購入することができ、平成11年６月新病院が完成、移転することができました。

病院建設途中の平成10年12月、前理事長が急逝したのが残念の極みでありますが、手術室も２室（１室はクリーンルーム）確保することができ、先生方にも少しは満足していただけるようになったのではないかと思っております。

話は変わりますが、当院には昭和49年発足の９人制バレーボールチーム（全員正職員で看護職、事務職、リハ室助手勤務）があり、過去５回国体に出場（九州国体優勝チームのみ出場）しています。宮崎県は毎年国体では最下位争いをしており、当院チームの出場が浮沈の鍵を握っていると言われたりすることもあり、笑うに笑えない（泣くに泣けない？）状況もあります。

新病院建築にあたり４階にバレーボール１コート分の体育館を作り、20数年続いていた練習場借り歩きからは解消されました。財政状況の許す限り今後も継続して行きたいと考えています。

当院にバレーボールチームがあるということで、小・中・高生、ママさんスポーツに至る迄スポーツ外傷にかかわる機会も多く、鏡視下手術等も徐々に増えており、先生方にも大いに利用していただきたいと考えております。

これからもいろいろと御迷惑をかけることが多いと思いますが、先生方に満足していただけるよう誠心誠意努力してまいるつもりですので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

新入会員自己紹介（正会員）

氏　　名　小　薗　敬　洋
生年月日　昭和47年６月14日生
出身高校　鹿児島県立鹿屋高校
出身大学　宮崎医科大学
血 液 型　Ａ型

宮医大整形外科に入局して、６カ月が過ぎました。６月の頃と変わった点といえば、病棟のどこに何があるということを覚えたぐらいで、知識の無さで頭をかかえてばかりです。毎日、知らない事がある度に、今夜は勉強しようと思うのですが、力尽きてしまいます。このままでは、いつまでたっても先輩の先生方のようにはなれないと危機に感じています。御迷惑をおかけすることが多々あると思いますが、今後とも御指導の程、宜しくお願いします。

氏　　名　小　牧　　亘
生年月日　昭和48年２月11日生
出身高校　宮崎県立都城泉ケ丘高校
出身大学　金沢医科大学
血 液 型　Ａ型

本年度、医師国家試験に合格し、晴れて宮崎医科大整形外科に入局することができました。

学生時代は、故郷宮崎を離れ、曇りがちな北陸の空を眺めては、宮崎の青い空を恋しく思っておりました。

今回、宮崎医科大整形外科へ入局という形で、地元の人々の地域医療に、微力ながらも貢献できる（迷惑もかけておりますが）ことをうれしく思います。毎日が新鮮なことの連続で、日々充実しております。初心忘れることなく、精進したいと思います。

今後とも、御指導、御鞭撻の程、宜しくお願い致します。

氏　　名　中　村　嘉　宏
生年月日　昭和48年７月29日生
出身高校　富山県立砺波高校
出身大学　宮崎医科大学
血 液 型　Ｏ型

今年入局しました中村と申します。

医者となり働きだしてまだ半年位ですが、現在とにかく精一杯がむしゃらに働いています。しかしながらこの半年やってきての感想は、「知識が足りない」それだけです。

先日、大腿骨の髄内釘の抜釘をさせてもらいました。まず皮切。どこをどのくらい切ればいいのか？メスは何番のどの種類を使えばいいのか？切るのはいいがどのくらいの深さで切ればいいのか？皮下組織はメスを使うのか電気メスを使うのか？筋層は何を使うのか？

外科医の基本と思われる皮膚を切るという手技一つとっても何もできない自分を痛感させられました。（しかし、髄内釘を抜く時、カンカンと透視を見ながら出てくるあの感触は何ともいえないものでした。）

今後、とにかく勉強し諸先生方に追いつき、対等にdiscussionし、自分の意見を聞き入れてもらえるのが当面の目標としています。

出身高校は富山県の砺波高校。砺波は富山県の西に位置する、散村（家と家が数百メートル離れ、点々とする集落。春先のフェーン現象による火事の防止、もしくは江戸時代の一揆防止の名残とされている。）とチューリップ（生産量１位。長崎よりも多いです。）で有名な地区です。冬はもちろん雪が降り、多いときには二階から出入り（一階玄関が雪で埋め尽くされるため）することもあるくらい積雪することがあります。

世界遺産で有名な合掌造りの五箇山まで20分位に位置している米と魚（蛍イカ、寒ブリ、アマ海老）と日本酒が美味しいのどかな田舎です。

大学時代は高校からやっていたラグビーをやっていました。自分の一番の武器はラグビーで培った体力。それを維持するためにたくさん食べてしまいますが。

こんな未熟者ですが今後とも御指導よろしくお願いします。

教室同門の研究業績

（1999．1月～12月まで）

◆著　　書

1）スポーツにおける筋力４　－スポーツとウォーキング－

黒木俊政

財団法人宮崎県体育協会－ラジオによるスポーツカウンセリング（放送のまとめ），p26-27，1998.

2）肉離れの対処法

黒木俊政

財団法人宮崎県体育協会－ラジオによるスポーツカウンセリング（放送のまとめ），p85-86，1998.

3）膝靭帯損傷１　－膝前十字靭帯の解剖と機能－

黒木俊政

財団法人宮崎県体育協会－ラジオによるスポーツカウンセリング（放送のまとめ），p86-87，1998.

4）膝靭帯損傷２　－膝前十字靭帯損傷の治療法－

黒木俊政

財団法人宮崎県体育協会－ラジオによるスポーツカウンセリング（放送のまとめ），p88-89，1998.

5）メディカルチェック１　－宮崎県高校スポーツ選手の下肢筋力から見た課題－

黒木俊政

財団法人宮崎県体育協会－ラジオによるスポーツカウンセリング（放送のまとめ），p89-90，1998.

6）メディカルチェック２　－宮崎県高校スポーツ選手の血液検査から見た課題－

黒木俊政

財団法人宮崎県体育協会－ラジオによるスポーツカウンセリング（放送のまとめ），p91-92，1998.

7）足関節捻挫１　－分類と治療法－

黒木俊政

財団法人宮崎県体育協会－ラジオによるスポーツカウンセリング（放送のまとめ），ｐ92-94，1998.

8）足関節捻挫２　－手軽な負傷度判断法と応急処置－

黒木俊政

財団法人宮崎県体育協会－ラジオによるスポーツカウンセリング（放送のまとめ），ｐ94-95，1998.

9）肩関節脱臼　－反復性肩関節脱臼にならないために－

黒木俊政

財団法人宮崎県体育協会－ラジオによるスポーツカウンセリング（放送のまとめ），ｐ95-96，1998.

10）腰背部の痛み～スポーツによる障害

田島直也，桑原　茂

整形外科痛みへのアプローチ　編集　山本博司

ｐ180-188，南江堂，東京，1999.

11）腰背部の痛み～外傷

田島直也，桑原　茂

整形外科痛みへのアプローチ　編集　山本博司

ｐ188-194，南江堂，東京，1999.

12）脊柱変形～イントロダクション

田島直也

整形外科最新の治療　Orthopedic Surgery 編集　平澤泰介ほか

ｐ323-324，南江堂，東京，1999.

13）スポーツ医学からの健康づくり対策

田島直也，帖佐悦男

宮崎政策セミナー事業講演会，ｐ1-26，（財）宮崎21世紀づくり地域振興財団，1999.

14) 競技力強化推進校のメディカルチェック～高校男子スポーツ選手の基礎体力評価
－ラグビー選手と新体操選手の比較－
黒木俊政，横山浩一郎，樋口邦彦，浜田光信，吉田素子，樋口潤一
'98みやざきスポーツ科学委員会研究報告書，ｐ6-18，1999.

15) 脳性麻痺の運動特性に関する研究
山口和正
痙性麻痺児の歩行分析ほか，編集　君塚　葵，共同研究報告書
ｐ69-85，心身障害児総合医療センター出版部，東京，1999.

◆原　　著

1）特発性側彎症に対する一期的前方側方解離術の試み
久保紳一郎，田島直也，作　良彦，黒木浩史，松元征徳，後藤啓輔
脊柱変形，13（1）184-188，1998.

2）広範RA頚椎病変に対する後骨頭・胸椎間固定術の経験
田島卓也，田島直也，久保紳一郎，作　良彦，松元征徳，後藤啓輔
整形外科と災害外科，48（1）77-81，1999.

3）90歳以上の超高齢者における大腿骨頚部骨折の予後の検討
川添浩史，黒田　宏，福元洋一，山口政一朗，川越正一，谷口博信
田島直也
整形外科と災害外科，48（1）98-101，1999.

4）人工股関節置換術におけるサポートリングの経験
池尻洋史，帖佐悦男，柏木輝行，松岡知己，結城祥一，田島直也
整形外科と災害外科，48（1）242-246，1999.

5）ラグビー競技者における頚椎のＸ線学的検討
江夏　剛，田島直也，作　良彦，松元征徳，濱田浩朗，園田典生
田島卓也
整形外科と災害外科，48（1）162-164，1999.

6）股関節周辺腫瘍切除後の欠損に対する大腿後部皮弁の使用経験

安藤　徹，小牧一麿，田島直也，帖佐悦男，川越正一，蛯原啓文
黒木龍二
整形外科と災害外科，48（1）278-281，1999.

7）手指外傷性拘縮に対する中島式創外固定器の使用経験

原田香苗，中島英親，平野哲也，寺本憲市郎，糸満弘之
整形外科と災害外科，48（2）563-567，1999.

8）A Comparative Study of Chemonucleolysis with Recombinant Human Cathepsin L and Chymopapain,

Shinichiro Kubo, Naoya Tajima, Nobuhiko Katunuma, Kenji Fukuda, Hiroshi Kuroki
SPINE, 24（2）120-127,1999.

9）脊椎症と腰痛

田島直也
からだの科学，206,74-77，1999.

10）脳性麻痺児に対する下腿三頭筋延長術後の歩行時動揺性の変化

渡邊信二，川越正一，山口和正，柳園賜一郎，田島直也
日本整形外科学会雑誌，73（2）S90，1999.

11）股関節のMR arthrography の臨床的意義

帖佐悦男，田島直也，松岡知己，坂本武郎
日本整形外科学会雑誌，73（2）S433，1999.

12）一次性股関節症の実態

帖佐悦男，田島直也，松岡知己，坂本武郎
日本整形外科学会雑誌，73（2）S569，1999.

13）慢性腰痛の対策

田島直也，帖佐悦男
臨床と研究，76（4）27-30，1999.

14) Thoracic Microdiscectomy and Artholsis of Costotransverse Joint as a Means of Releasing Technique for Idiopathic Scoliosis

Shinichiro Kubo, Naoya Tajima, Etsuo Chosa, Keisuke Goto

Research into Spinal Deformities, 2 285-288, 1999.

15) Segmental square Spinal Instrumentation for Posterior Lumbar Spinal Fixation

Naoya Tajima, Etsuo Chosa, Shinichiro Kubo, Hiroshi Kuroki, Masanori Matsumoto

Journal of Spinal Disorders, 12 (3) 240-244, 1999.

16) Influence on spinal cord and nerve root, and change in extradural space of bioresorbable films made of poly-L-lactide (PLLA) and hydroxyapatite (HA) particles / PLLA composites

M. Matsumoto, S. Kubo, E. Chosa, N. Tajima, K. Nabeshima, Y. Shikinami

SIROT 99, 1999.

17) New Releasing Techniques for Scoliosis;Thoracic Microdiscestomy and Arthorolysis of Costotransverse Joint

N. Tajima, E. Chosa, S. Kubo, Y. Saku, H. Kuroki, M. Matsumoto

SICOT 99 180, 1999.

18) Radiographic Diagnostic Problem of Primary Coxarthrosis,

E. Chosa, N. Tajima, T. Kashiwagi, T. Matsuoka

SICOT 99 37, 1999.

19) 腰椎変性疾患に対する後側方固定術の長期成績　－10年以上経過例についての検討－

黒木浩史，田島直也，久保紳一郎，作　良彦，松元征徳，後藤啓輔

日本脊椎外科学会雑誌，10（1）16，1999.

20) 腰仙椎後側方固定術の遠隔成績－20年以上経過例についての検討

田島直也，久保紳一郎，黒木浩史，後藤啓輔，瀬良敬祐，田口　厚
鳥越雄喜，小西宏昭

日本脊椎外科学会雑誌，10（1）31，1999.

21) 広範囲ＲＡ頚椎病変に対する後頭骨胸椎間固定術の臨床成績と問題点

久保紳一郎，田島直也，作　良彦，黒木浩史，松元征徳，後藤啓輔

日本脊椎外科学会雑誌，10（1）51，1999.

22) PLLAの脊髄、神経根への影響とHA/PLLA の硬膜外腔での変化

松元征徳，田島直也，久保紳一郎，敷波保夫

日本脊椎外科学会雑誌，10（1）171，1999.

23) 当科における脊椎カリエス手術例の変遷

後藤啓輔，田島直也，久保紳一郎，作　良彦，黒木浩史，松元征徳

帖佐悦男

西日本脊椎研究会誌，25（1）17-21，1999.

24) 脊椎のスポーツ障害

田島直也

西日本脊椎研究会誌，25（2）190-202，1999.

25) 医学部ラグビー部員の頚椎変化

田島卓也，田島直也，帖佐悦男，園田典生，樋口潤一

日本整形外科スポーツ医学会雑誌，19（1）63-68，1999.

26) A biomechanical study of posterolateral lumbar fusion using a three-dimensional nonlinear finite element method

Totoribe K, Tajima N, Chosa E

J Orthop Sci, 4(2) 115-126, 1999.

27) 当科におけるサッカーによるスポーツ傷害例の検討

園田典生，帖佐悦男，樋口潤一，河野　立，松岡篤，田島直也

九州・山口スポーツ医・科学会誌，11 133-136，1999.

28) 高校サッカー選手のメディカルチェック

樋口潤一，田島直也，園田典生，山本惠太郎，野中隆史，黒木俊政

九州・山口スポーツ医・科学会誌，11 131，1999.

29) 頚・背・腰痛の神経ブロック、星状神経節ブロック

黒木俊政

整形外科最小侵襲手術ジャーナル，12 19-24，1999.

30) 脛骨プラトー欠損例に対する人工膝関節置換術の経験

川野彰裕，桑原　茂，渡部正一，金井純次，内田秀穂，津曲孝康
永井孝文

整形外科と災害外科，48（3）875-878，1999.

31) 鎖骨骨折に対するEnder 釘の使用経験

田口　学，谷脇功一，木屋博昭，弓削孝雄，金井一男，仙波　圭
川谷洋右，池尻洋史

整形外科と災害外科，48（3）924-927，1999.

32) 上腕骨近位端骨折に対するEnder 髄内釘の治療成績

金井一男，谷脇功一，木屋博昭，弓削孝雄，田口学，仙波　圭
川谷洋右，池尻洋史

整形外科と災害外科，48（3）932-934，1999.

33) 当院における頚椎砂時計腫手術経験

谷畠　満，田島直也，久保紳一郎，松元征徳，海田博志

整形外科と災害外科，48（4）1061-1071，1999.

34) 股関節のArthro-MRIについて

坂本武郎，帖佐悦男，松岡知己，益山松三，深野木快士，市原久史
田島直也

整形外科と災害外科，48（4）1164-1167，1999.

35) 股関節症におけるFalse profile 像での適合性の評価および股関節動態撮影法

松岡知己，帖佐悦男，柏木輝行，坂本武郎，市原久史，田島直也
長鶴義隆

Hip Joint，25 220-222，1999.

36) 人工股関節置換術におけるAcetabular reinforcement ring with hook の使用経験

帖佐悦男，田島直也，柏木輝行，松岡知己，坂本武郎，深野木快士

Hip Joint，25 392-396，1999.

37) Usefulness of the modified transgluteal approach to the hip joint

Etsuo Chosa, Naoya Tajima, Tomomi Matsuoka, Takero Sakamoto
Tohru Andoh
Treasury of Hip Surgery Memorial issue for The 26th Japanese Hip Society Meeting, p54-55, 1999.

38) Finite element investigation of anterior plate and bone graft load sharing in the cervical spine

Scifert JL, Goel VK, Grosland NM, Puttlitz CM, Totoribe K
Traynelis VC
1999 Bioengineering conference ASME 42 51-52, 1999.

39) A biomechanical comparison of three anterior stabilization devices,

Rogge TN, Hitchon PW, Goel VK, Grosland NM, Yang SJ, Dooris AP
Drake J, Totoribe K, Torner JC
1999 Bioengineering conference ASME 42 271-272, 1999.

40) Exchangeable gene trap using Cre/mutated *lox* system

Kimi Araki, Takashi Imaizumi, Tomohisa Sekimoto, Kumiko Yoshinobu, Junichiro Yoshimuta, Miwa Akizuki, Katsutaka Miura
Masatake Araki and Ken-ichi Yamamura
Cel.Mol.Biol., 45 737-750, 1999.

41) PLLAと HA/PLLAの脊髄、神経根への影響と硬膜外腔での変化

松元征徳，田島直也，久保紳一郎，鍋島一樹，敷波保夫
日本整形外科学会雑誌，73（8）S1669，1999.

42) ジーントラップ法を用いた骨・軟骨の発生・分化に関与する未知遺伝子の探索－第１報－

関本朝久，尾池雄一，帖佐悦男，田島直也，荒木喜美，山村研一
日本整形外科学会雑誌，73（8）S1777，1999.

◆症例報告

1）ゴルフによる有鉤骨鉤骨折の３例

河原勝博，谷脇功一，木屋博昭，弓削孝雄，田口学，仙波　圭
川谷洋右
整形外科と災害外科，48（2）559-562，1999.

2）高Ca血症を伴う多発性骨融解により診断された進行乳癌の１例

上谷かおり，山口秀樹，片上秀喜，帖佐悦男，青山英子
浅田祐士郎，田島直也，瀬戸口敏明，松倉　茂
宮崎医学会誌　23 71-76，1999.

3）手指末節骨内に生じた類上皮嚢腫の１例

坂田勝美，川越正一，神薗　豊，黒木龍二，河野立，岡田麻里
田島直也
整形外科と災害外科，48（4）1147-1151，1999.

4）母指中手骨に発生した好酸球性肉芽腫症の一例

松浦愛二，篠原典夫，高妻雅和，徳久俊雄，阿久根広宣，佐本信彦，
河原勝博，牟田口　滋，末永賢也，門内一郎，小林邦雄，畠山金太
整形外科と災害外科，48（4）1152-1155,1999.

5）Solitary fibrous tumor of the spinal nerve rootlet;Case report and literature survey

Hiroaki Kataoka, Yutaka Akiyama, Shinichiro Kubo, Hiroshi Itoh
Ryouichi Hamasuna, Naoya Tajima, Masashi Koono
Pathology international, 49 826-830, 1999.

6）圧挫症候群の１例

川添浩史，黒田　宏，福元洋一，山口政一朗，山下秀一，田中弦一
竹智義臣，柏木孝史
整形外科，50 83-85,1999.

◆学会報告

1）高校女子長距離選手のメディカルサポートよりみえてきた高校スポーツの問題点

獅子目賢一郎，蛯原啓文，鳥取部光司，樋口潤一
第21回宮崎県スポーツ医学研究会，1999，1，宮崎.

2）スポーツ中に心肺停止をきたした若年者の２例

黒田　宏，山本惠太郎，福元洋一，山下秀一，柴田剛徳
第21回宮崎県スポーツ医学研究会，1999,1,宮崎.

3）診断に難渋した下腿慢性コンパートメント症候群の１例

村上　弘，帖佐悦男，園田典生，樋口潤一，田島卓也，田島直也

第21回宮崎県スポーツ医学研究会, 1999, 1, 宮崎.

4）柔道による腸骨梁裂離骨折の１例

山本惠太郎，黒田　宏，福元洋一，谷村俊二

第21回宮崎県スポーツ医学研究会，1999，１，宮崎.

5）飛び込みによる頚部損傷２症例の治療経験

川谷洋右，谷脇功一，木屋博昭，弓削孝雄，金井一男，谷口　学

仙波　圭，池尻洋史

第21回宮崎県スポーツ医学研究会，1999，１，宮崎.

6）新鮮アキレス腱皮下断裂に対する経皮的縫合法と観血的縫合法の比較検討

黒沢　治，田辺龍樹，矢野浩明，有住裕一，戸田勝，田島直也

第21回宮崎県スポーツ医学研究会，1999，１，宮崎.

7）交通外傷後、不幸な転帰をとり剖検により原因を解明しえた１例

金井一男，谷脇功一，木屋博昭，弓削孝雄，田口学，仙波　圭

川谷洋右，池尻洋史

第13回宮崎救急医学会，1999，２，延岡.

8）交通外傷による股関節脱臼骨折の４例

山口順子，千代反田　修

第13回宮崎救急医学会，1999，２，延岡.

9）四肢の広範囲軟部組織欠損を伴う開放骨折に対する当科の治療方針

藤岡正樹，大安剛裕，田辺龍樹，矢野浩明，黒沢治，有住裕一

第13回宮崎救急医学会，1999，２，延岡.

10）腰椎椎間板ヘルニアにおける緊急手術の適応

牟田口　滋，徳久俊雄，高妻雅和，阿久根広宣，佐本信彦，

松浦愛二，河原勝博，末永賢也，門内一郎，小林邦雄

第13回宮崎救急医学会，1999，２，延岡.

11）術中操作に伴う膝窩動脈損傷の１例

田口　学，谷脇功一，木屋博昭，弓削孝雄，金井一男，仙波　圭
川谷洋右，池尻洋史，栄　建之，古賀治幸
第13回宮崎救急医学会，1999，２，延岡.

12）外傷性腕神経叢麻痺の経験

池尻洋史，谷脇功一，木屋博昭，弓削孝雄，金井一男，谷口　学
仙波　圭，川谷洋右
第13回宮崎救急医学会，1999，２，延岡.

13）動物咬傷による小児指末節完全切断における再接着術の２例

河原勝博，徳久俊雄，高妻雅和，阿久根広宣，佐本信彦，松浦愛二
牟田口　滋，末永賢也，門内一郎，小林邦雄
第13回宮崎救急医学会，1999，２，延岡.

14）当院におけるＲＡに合併した二次性アミロイドーシス症例の検討

山下良三，桑原　茂，川野彰裕，吉田好志郎，金井純次，篠原典夫
木村千仭
第17回九州リウマチ学会，1999，３，宮崎.

15）当院の慢性関節リウマチ患者における上部消化管アミロイドーシスについての検討

内藤時雄，甲斐睦章，江夏　剛，大橋　剛，近藤正一，宮原寿明
眞島龍興
第17回九州リウマチ学会，1999，３，宮崎.

16）人工膝関節術後の大腿骨遠位部骨萎縮の経時的発生頻度

吉田好志郎，桑原　茂，金井純次，山下良三，川野彰裕，篠原典夫
木村千仭，大平　卓
第17回九州リウマチ学会，1999，３，宮崎.

17）痛風結節に対し外科的治療を行った１例

税所幸一郎，長田浩伸，前田和徳，佐藤誠一
第17回九州リウマチ学会，1999，３，宮崎.

18）広範ＲＡ頚椎病変に対する後頭骨・胸椎間固定術の短期成績

久保紳一郎，田島直也，黒木浩史，松元征徳，後藤啓輔，渡邊信二
第17回九州リウマチ学会，1999，３，宮崎.

19) リウマチ患者におけるＱＯＬの検討

中村真由美，日高　隆，帖佐悦男，坂本武郎，深野木快士
猪俣尚規，坂田勝美，田島直也
第７回宮崎リウマチのケア研究会，1999，３，宮崎.

20) 脳性麻痺児に対する下腿三頭筋延長術後の歩行時動揺性の変化

渡邊信二，川越正一，山口和正，柳園賜一郎，田島直也
第72回日本整形外科学会学術集会，1999，４，横浜.

21) 股関節のMR　arthrographyの臨床的意義

帖佐悦男，田島直也，松岡知己，坂本武郎
第72回日本整形外科学会学術集会，1999，４，横浜.

22) 一次性股関節症の実態

帖佐悦男，田島直也，松岡知己，坂本武郎
第72回日本整形外科学会学術集会，1999，４，横浜.

23) Influence on spinal cord and nerve root, and change in extradural space of bioresorbable films made of poly-L-lactide (PLLA) and hydroxyapatite (HA) particles / PLLA composites,

M. Matsumoto, S. Kubo, E. Chosa, N. Tajima, K. Nabeshima,
Y. Shikinami
SIROT 99, 1999, 4, Sydney.

24) New Releasing Techniques for Scoliosis;Thoracic Microdiscestomy and Arthrolysis of Costotransverse Joint

N. Tajima, E. Chosa, S. Kubo, Y. Saku, H. Kuroki, M. Matsumoto
SICOT 99, 1999, 4, Sydney.

25) Radiographic Diagnostic Problem of Primary Coxarthrosis

E. Chosa, N. Tajima, T. Kashiwagi, T. Matsuoka
SICOT 99, 1999, 4, Sydney.

26) 遺伝子トラップ法を用いた発生・分化に関与する未知遺伝子の探索（第６報）

荒木喜美，今泉隆志，三浦克尚，秋月美和，吉牟田純一郎
関本朝久，吉信公美子，荒木正健，鈴木　操，山村研一
第32回日本発生生物学会，1999，５，神戸.

27）遺伝子トラップ法を用いた発生・分化に関与する未知遺伝子の探索（第７報）

関本朝久，吉牟田純一郎，遠藤文夫，田島直也，荒木喜美
鈴木　操，山村研一
第32回日本発生生物学会，1999，５，神戸.

28）医学部ラグビー部員の頸椎変化　－初心者における１年間での変化－

田島卓也，田島直也，帖佐悦男，園田典生，樋口潤一
第25回日本整形外科スポーツ医学会学術集会，1999，５，神戸.

29）高校生サッカー選手のメディカルチェック

樋口潤一，田島直也，黒木俊政，帖佐悦男，園田典生，田島卓也
第25回日本整形外科スポーツ医学会学術集会，1999，５，神戸.

30）Screening and medical examination of low back pain

Naoya Tajima, Etsuo Chosa, Shinichiro Kubo
9th Taiwan-Japanese Orthopaedic Symposium, 1999, 5, Hualien.

31）腰椎変性疾患に対する後側方固定術の長期成績　－10年以上経過例についての検討－

黒木浩史，田島直也，久保紳一郎，作　良彦，松元征徳，後藤啓輔
第28回日本脊椎外科学会，1999，６，東京.

32）腰仙椎後側方固定術の遠隔成績　－20年以上経過例についての検討－

田島直也，久保紳一郎，黒木浩史，後藤啓輔，瀬良敬祐，田口　厚
鳥越雄喜，小西宏昭
第28回日本脊椎外科学会，1999，６，東京.

33）広範囲ＲＡ頚椎病変に対する後頭骨胸椎間固定術の臨床成績と問題点

久保紳一郎，田島直也，作　良彦，黒木浩史，松元征徳，後藤啓輔
第28回日本脊椎外科学会，1999，６，東京.

34）PLLAの脊髄、神経根への影響とHA/PLLA の硬膜外腔での変化

松元征徳，田島直也，久保紳一郎，敷波保夫
第28回日本脊椎外科学会，1999，６，東京.

35) Duracon 型人工膝関節全置換術の中期成績

深野木快士，帖佐悦男，松岡知己，坂本武郎，田島直也，桑原　茂
三股恒夫

第97回西日本整形・災害外科学会，1999，６，福岡.

36) 当科におけるＴＫＲ後の大腿骨顆上骨折の治療経験

仙波　圭，谷脇功一，木屋博昭，弓削孝雄，金井一男，田口　学
川谷洋右，池尻洋史

第97回西日本整形・災害外科学会，1999，６，福岡.

37) 当科における小児大腿骨骨幹部骨折の治療経験

川谷洋右，谷脇功一，木屋博昭，弓削孝雄，金井一男，田口　学
仙波　圭，池尻洋史

第97回西日本整形・災害外科学会，1999，６，福岡.

38) 陳旧性大胸筋皮下断裂の一例

冨里恵美，神薗　豊，川越正一，黒木龍二，谷畠　満，田島直也

第97回西日本整形・災害外科学会，1999，６，福岡.

39) 再発手術後に診断できた非骨化性線維腫の一例

葉　山泉，伊崎輝昌，本荘憲昭，浅川康司，古賀宗正

第97回西日本整形・災害外科学会，1999，６，福岡.

40) 臼蓋縁に骨移植術を併用した人工股関節形成術の術後成績

猪俣尚規，帖佐悦男，松岡知己，坂本武郎，坂田勝美，田島直也

第97回西日本整形・災害外科学会，1999，６，福岡.

41) 術中脊髄エコーを用いた脊髄前後径・拍動パターンの観察

市原久史，田島直也，後藤啓輔，久保紳一郎，黒木浩史，松元征徳

第97回西日本整形・災害外科学会，1999，６，福岡.

42) 鎖骨骨折に伴った烏口突起基部骨折の治療経験

本荘憲昭，伊崎輝昌，葉　山泉，浅川康司

第97回西日本整形・災害外科学会，1999，６，福岡.

43) 前腕骨骨幹部骨折に対する髄内釘（TRUE／FLEX）の使用経験

田口　学，谷脇功一，木屋博昭，弓削孝雄，金井一男，仙波　圭
川谷洋右，池尻洋史
第97回西日本整形・災害外科学会，1999，６，福岡.

44) 近位脛腓関節癒合症の１例

浪平辰州，塩月康弘，井上　篤
第97回西日本整形・災害外科学会，1999，６，福岡.

45) 低リン血症性ビタミンＤ抵抗性くる病にOPLLを合併した同胞例

松岡　篤，渡邊信二，松元征徳，久保紳一郎，田島直也
第97回西日本整形・災害外科学会，1999，６，福岡.

46) 破壊性脊椎関節症（DSA)の２症例

牟田口　滋，阿久根広宣，徳久俊雄，高妻雅和，佐本信彦
松浦愛二，河原勝博，末永賢也，門内一郎，小林邦雄
第97回西日本整形・災害外科学会，1999，６，福岡.

47) 腰椎変性すべり症に対する後側方固定術の検討－整復操作と臨床成績との関連性について－

黒木浩史，田島直也，久保紳一郎，後藤啓輔，渡邊信二
第51回西日本脊椎研究会，1999，６，長崎.

48) Finite element investigation of anterior plate and bone graft load sharing in the cervical spine

Scifert JL, Goel VK, Grosland NM, Puttlitz CM, Totoribe K
Traynelis VC
1999 Bioengineering conference ASME, 1999, 6, Big Sky.

49) A biomechanical comparison of three anterior stabilization devices,

Rogge TN, Hitchon PW, Goel VK, Grosland NM, Yang SJ, Dooris AP
Drake J, Totoribe K, Torner JC
1999 Bioengineering conference ASME, 1999, 6, Big Sky.

50) 長期透析患者に生じたアミロイド骨嚢腫に合併した大腿骨頚部内側病的骨折の一例

石田康行，長鶴義隆，大田博人，本部浩一
第38回宮崎整形外科懇話会，1999，７，宮崎.

51) 下腿骨骨折受傷後に生じた肺塞栓症の１例

池尻洋史，谷脇功一，木屋博昭，弓削孝雄，金井一男，田口　学
川谷洋右，福田朋博

第38回宮崎整形外科懇話会，1999，７，宮崎.

52) 人工関節置換術後に仙骨のinsufficiency fractureを生じた慢性関節リウマチ患者の２症例

江夏　剛，甲斐睦章

第38回宮崎整形外科懇話会，1999，７，宮崎.

53) 陳旧性のアキレス腱断裂に対するLeeds-Keio人工靭帯使用の経験

前田和徳，税所幸一郎，長田浩伸

第38回宮崎整形外科懇話会，1999，７，宮崎.

54) 脳性麻痺者の歩容の検討　－種々の歩行分析装置による術前後の評価－

海田博志，山口和正，柳園賜一郎，渡邊信二

第38回宮崎整形外科懇話会，1999，７，宮崎.

55) 超音波骨量測定における測定部位について（第２報）

平部久彬，帖佐悦男，田島直也

第38回宮崎整形外科懇話会，1999，７，宮崎.

56) Ace humeral nail system を用いて治療を行った上腕骨近位端骨折の小経験

矢野浩明，田辺龍樹，黒沢　治，有住裕一

第38回宮崎整形外科懇話会，1999，７，宮崎.

57) 肩鎖関節脱臼に対するCadenat 変法の治療経験

永吉洋次，岩切清文

第38回宮崎整形外科懇話会，1999，７，宮崎.

58) 反復性肩関節脱臼に対するBristow 変法の術後成績

谷畠　満，川越正一，黒木龍二，冨里恵美，帖佐悦男，田島直也，
神薗　豊

第38回宮崎整形外科懇話会，1999，７，宮崎.

59) 高齢者（80才以上）の大腿骨頚部外側骨折の治療経験－当院における治療－

森　治樹，小牧一麿，佐藤隆三，川越正一，田辺龍樹，安藤　徹

第25回日本骨折治療学会，1999，７，長野.

60) Exchangeable gene trap using Cre/mutated lox system

Kimi Araki, Masatake Araki, Takashi Imaizumi
Tomohisa Sekimoto, Ken-ichi Yamamura
Mouse Molecular Genetics Meeting 1999, 9, Heidelberg.

61) Analysis of gene trap event in genes expressed ubiquitously

Masatake Araki, Kimi Araki, Kumiko Yoshinobu, Takashi Imaizumi
Tomohisa Sekimoto, Katsutaka Miura, Miwa Akizuki
Junichiro Yoshimuta, Yuichi Oike, Ken-ichi Yamamura
Mouse Molecular Genetics Meeting 1999, 9, Heidelberg.

62) 変形性股関節症の骨頭温存手術の工夫　－50歳代以降の股関節症における術後10年以上の経過例－

長鶴義隆，大田博人，本部浩一，石田康行
第27回日本リウマチ・関節外科学会，1999，9，久留米.

63) 頚椎椎間板ヘルニアに対するTransuncal approach によるdiscectomy without fusion の試み

久保紳一郎，田島直也　黒木浩史，松元征徳，後藤啓輔
第６回日本脊椎・脊髄神経手術手技学会学術集会，1999，9，東京.

64) 車椅子の移動距離の実態調査

花田壮平，大寺健一郎，田中正一，古川郁子，池田眞理
第22回宮崎リハビリテーション研究会，1999，9，宮崎.

65) 脳卒中患者の日常生活動作と主観的幸福感との関係

－自宅退院または転院時と外来訓練終了時の比較－

田中正一
第22回宮崎リハビリテーション研究会，1999，9，宮崎.

66) 腰痛症における腰部保護ベルトの効果について

盛武千穂，浜砂貴美子，田中正一
第22回宮崎リハビリテーション研究会，1999，9，宮崎.

67) 当院看護職員における腰痛体操

帖佐悦男，松元征徳，久保紳一郎，増田　寛，田島直也
第22回宮崎リハビリテーション研究会，1999，9，宮崎.

68) PLLAと HA/PLLAの脊髄、神経根への影響と硬膜外腔での変化

松元征徳，田島直也，久保紳一郎，鍋島一樹，敷波保夫

第14回日本整形外科学会基礎学術集会，1999，10，奈良.

69) ジーントラップ法を用いた骨・軟骨の発生・分化に関与する未知遺伝子の探索　－第１報－

関本朝久，尾池雄一，帖佐悦男，田島直也，荒木喜美，山村研一

第14回日本整形外科学会基礎学術集会，1999，10，奈良.

70) 慢性関節リウマチに対するTKA 後の膝蓋大腿関節の問題点について

安藤　徹，帖佐悦男，松岡知己，坂本武郎，松岡篤，増田　寛

田島直也，桑原　茂

第５回南九州リウマチフォーラム，1999，10，宮崎.

71) 慢性関節リウマチ患者の人工関節手術における自己血輸血について

甲斐睦章，財津泰久，海田博志

第５回南九州リウマチフォーラム，1999，10，宮崎.

72) 人工関節置換術を受ける慢性関節リウマチ患者の入院期間に影響を及ぼす因子について

金井純次，桑原　茂，山下良三，吉田好志郎，江夏　剛，篠原典夫

木村千仭

第５回南九州リウマチフォーラム，1999，10，宮崎.

73) 慢性関節リウマチ患者の間質性肺病変の検討

山下良三，桑原　茂，金井純次，吉田好志郎，江夏　剛，篠原典夫

木村千仭

第５回南九州リウマチフォーラム，1999，10，宮崎.

74) エチドロン酸二ナトリウム短期投与における骨代謝マーカーと骨塩量の関係

後藤啓輔，帖佐悦男，田島直也，久保紳一郎，黒木浩史

第１回日本骨粗鬆症学会，1999，10，倉敷.

75) 超音波骨量測定における測定部位について（第２報）

平部久彬，帖佐悦男，田島直也

第１回日本骨粗鬆症学会，1999，10，倉敷.

76) 一次性股関節症の病態と鑑別疾患

帖佐悦男，田島直也，松岡知己，坂本武郎，安藤徹

第26回日本股関節学会，1999，10，仙台.

77) 股関節臼蓋唇のMR arthrography

坂本武郎，帖佐悦男，松岡知己，増田　寛，柏木輝行，田島直也

第26回日本股関節学会，1999，10，仙台.

78) 股関節手術におけるModified transgluteal approachについて

帖佐悦男，田島直也，松岡知己，坂本武郎，安藤徹

第26回日本股関節学会，1999，10，仙台.

79) HATCP コーティング人工骨頭の術後３年以上の成績について

松岡知己，帖佐悦男，坂本武郎，松岡　篤，柏木輝行，田島直也

第26回日本股関節学会，1999，10，仙台.

80) 亜脱臼を呈した重度ペルテス病に対する治療経験

本部浩一，長鶴義隆，大田博人，石田康行

第26回日本股関節学会，1999，10，仙台.

81) 脊髄麻痺を伴った高度後側弯症の一手術例

黒木浩史，田島直也，久保紳一郎，渡邊信二，後藤啓輔

第52回西日本脊椎研究会，1999，10，福岡.

82) A biomechanical comparison of three anterior stabilization devices

Hitchon PW, Rogge TN, Goel VK, Grosland NM, Yang SJ, Dooris AP
Drake J, Totoribe K, Torner JC

14th Annual meeting North American Spine Society

1999, 10, Chicago.

83) CPの歩行の経時的変化　－床反力計による長期追跡例の検討－

山口和正，柳園賜一郎，冨里恵美，渡邊信二，川越正一，岡本義久
田島直也

第16回脳性麻痺の外科研究会，1999，10，八戸.

84) Random Mutagenesis in Mice Using the Exchangeable Gene Trap

Ken-ichi Yamamura, Masatake Araki, Takashi Imaizumi
Tomohisa Sekimoto, Kimi Araki
13th International Mouse Genome Conference
1999, 10, Philadelphia.

85) 二分舟状骨による足部スポーツ障害の治療経験

園田典生，田島直也，帖佐悦男，樋口潤一
第10回日本臨床スポーツ医学会学術集会，1999，11，東京.

86) 高校女子長距離選手のメディカルサポートよりみた学校スポーツの問題点

獅子目賢一郎，鳥取部光司，田島直也，樋口潤一
第10回日本臨床スポーツ医学会学術集会，1999，11，東京.

87) 20年を経過した新鮮同種膝関節部分移植の１例

渡辺　雄，松本智子
第71回長崎整形外科懇話会，1999，11，長崎.

88) Bizarre parosteal osteochondromatous proliferation(BPOP)の１例

松岡　篤，帖佐悦男，松岡知己，坂本武郎，田島直也
第５回宮崎腫瘍治療研究会，1999，11，宮崎.

89) 有限要素法による股関節モデル作成　－要素分割に関し－

結城祥一，帖佐悦男，園田典生，後藤啓輔，田島直也
第26回日本臨床バイオメカニクス学会，1999，11，京都.

90) 自然消退した急性頚椎硬膜外血腫の一例

末永賢也，阿久根広宣，松浦愛二，小林邦雄，永井孝文
第98回西日本整形・災害外科学会，1999，11，宮崎.

91) 脊髄疾患に起因した脊柱側弯症の２例

岡田麻里，田島直也，久保紳一郎，黒木浩史，渡邊信二，後藤啓輔
第98回西日本整形・災害外科学会，1999，11，宮崎.

92) ２本の裸子固定を併用したPLIFの経験

原真一郎，井上　篤，小西宏昭
第98回西日本整形・災害外科学会，1999，11，宮崎.

93) 人工膝関節置換術術後の膝蓋大腿関節障害

安藤　徹，帖佐悦男，松岡知己，坂本武郎，松岡　篤，田島直也

第98回西日本整形・災害外科学会，1999，11，宮崎.

94) 頚椎脱臼における術後の局所アライメントの変化について

－ORION anterior cervical plate 併用の前方固定法の有用性の検討－

安達耕一，小西宏昭，原真一郎，高須賀良一，原寛　徳，山口和博

伊達武利，井上　篤，山崎浩二郎，玉井　崇

第98回西日本整形・災害外科学会，1999，11，宮崎.

95) 小児化膿性脊椎炎の３症例

坂田勝美，阿久根広宣，徳久俊雄，高妻雅和，崎村　陸，池尻洋史

花田麻須大，小林邦雄

第98回西日本整形・災害外科学会，1999，11，宮崎.

96) 橈骨矯正骨切り術およびSauve-Kapandji法を併用した両側Medelung変形の１例

村上　弘，川越正一，黒木龍二，谷畠　満，田島直也

第98回西日本整形・災害外科学会，1999，11，宮崎.

97) 手根管症候群に対する鏡視下手術例の検討

原田香苗，中島英親，寺本憲市郎，名護宏康，川崎恵吉，田中達朗

米満弘之

第98回西日本整形・災害外科学会，1999，11，宮崎.

98) 殿筋群を剥離しない寛骨臼回転骨切り術－Curved Periacetabular Osteotomy の治療成績

本荘憲昭，内藤正俊，花村達夫，木田浩隆

第98回西日本整形・災害外科学会，1999，11，宮崎.

99) 外側型腰椎椎間板ヘルニアの手術成績

和田正一，中川雅裕，吉永一春，前原東洋

第98回西日本整形・災害外科学会，1999，11，宮崎.

100) 上位頚椎部における椎骨静脈の走行の検討

井上　篤，高須賀良一，小西宏昭，原真一郎，原　寛徳，山口和博

伊達武利，安達耕一，山崎浩二郎，玉井　崇

第98回西日本整形・災害外科学会，1999，11，宮崎.

101) 当科における天蓋骨折の治療経験

海田博志，甲斐睦章，財津泰久

第98回西日本整形・災害外科学会，1999，11，宮崎.

102) 整形外科的治療を必要とした老人保健施設利用者について

中川雅裕，前原東洋，吉永一春，和田正一

第98回西日本整形・災害外科学会，1999，11，宮崎.

103) Gamma nailおよびTHA 術後に合併した大腿骨骨幹部骨折に対するDall-Miles Cable＋compression Plate の使用経験

浪平辰州，塩月康弘

第98回西日本整形・災害外科学会，1999，11，宮崎.

104) 第３頚椎に発生した悪性リンパ腫の１例

玉井　崇，山崎浩二郎，安達耕一，井上　篤，伊達武利，山口和博

原真一郎，原　寛徳，小西宏昭，高須賀良一

第98回西日本整形・災害外科学会，1999，11，宮崎.

105) 妊娠により増大した胸壁デスモイド腫瘍の１症例

吉田好志郎，篠原典夫，桑原　茂，金井純次，川野彰裕，江夏　剛

第98回西日本整形・災害外科学会，1999，11，宮崎.

106) Plexiform Malignent Peripheral Nerve Sheath Tumor と思われる１例

花田麻須大，篠原典夫，徳久俊雄，高妻雅和，阿久根広宣

池尻洋史，崎村　陸，坂田勝美，小林邦雄

第98回西日本整形・災害外科学会，1999，11，宮崎.

107) 人工関節手術時の自己血輸血について　－RAとOAの比較検討－

甲斐陸章，財津泰久，海田博志

第98回西日本整形・災害外科学会，1999，11，宮崎.

108) 重度障害児（者）の骨盤側傾

山口和正，柳園賜一郎，冨里恵美，田島直也

第10回日本小児整形外科学会，1999，11，東京.

109) 可変型遺伝子トラップ法によるランダムミュータジェネシス

山村研一，荒木正健，今泉隆志，関本朝久，荒木喜美

第16回日本疾患モデル学会総会，1999，11，仙台.

110) Random mutagenesis in mice using the exchangeable gene trap,

Ken-ichi Yamamura, Masatake Araki, Takashi Imaizumi

Tomohisa Sekimoto, Kimi Araki

第22回日本分子生物学会，1999，12，福岡.

111) マウス消化管発生過程におけるHox遺伝子の発現

川添泰弘，関本朝久，荒木正健，高木克公，荒木喜美，山村研一

第22回日本分子生物学会，1999，12，福岡.

112) Cre-変異*lox*システムを用いた可変型遺伝子トラップにおける遺伝子置換

荒木喜美，今泉隆志，関本朝久，荒木正健，鈴木　操，山村研一

第22回日本分子生物学会，1999，12，福岡.

113) 遺伝子トラップ法により得られたクローンAyu8008 の解析

吉信公美子，荒木正健，吉牟田純一郎，関本朝久，荒木喜美

鈴木　操，山村研一

第22回日本分子生物学会，1999，12，福岡.

114) 遺伝子トラップ法により得られた変異マウスAyu8016とAyu8030の解析

関本朝久，吉牟田純一郎，鈴木　操，田島直也，荒木喜美，山村研一

第22回日本分子生物学会，1999，12，福岡.

115) 遺伝子トラップ法により得られた変異マウスAyu8022とAyu8041の解析

吉牟田純一郎，関本朝久，遠藤文夫，田島直也，荒木喜美

鈴木　操，山村研一

第22回日本分子生物学会，1999，12，福岡.

116) 医学部ラグビー部員の頚椎変化　－初心者における２年間での変化－

田島卓也，田島直也，帖佐悦男，園田典生，樋口潤一

第12回九州・山口スポーツ医・科学研究会，1999，12，福岡.

117) 頚椎疾患に対するTransuncal approach による非固定椎間板摘出術の試み

公文崇詞，田島直也，久保紳一郎，後藤啓輔

第39回宮崎整形外科懇話会，1999，12，宮崎.

118) 特異顔貌を有するDistal arthrogryposis syndromeの３症例

冨里恵美，山口和正，柳園賜一郎

第39回宮崎整形外科懇話会，1999，12，宮崎.

119) 変形性手関節症に対して部分手関節固定術を施行した２例

谷畠　満，川越正一，黒木龍二，村上　弘，田島直也，神薗　豊

第39回宮崎整形外科懇話会，1999，12，宮崎.

120) 腱板不全損傷の手術治療例の検討

獅子目賢一郎，尾田朋樹，鳥取部光司，蛯原啓文

第39回宮崎整形外科懇話会，1999，12，宮崎.

121) 当科にて行ったＪ型鋼線髄内釘固定法の経験

池尻洋史，小林邦雄，徳久俊雄，高妻雅和，阿久根広宣，出口伸治

崎村　陸，花田麻須大，坂田勝美

第39回宮崎整形外科懇話会，1999，12，宮崎.

122) 高齢者における上腕骨近位端骨折に対する観血的治療経験

市原久史，谷脇功一，木屋博昭，弓削孝雄，田口　学，川谷洋右

福田朋博，金井一男

第39回宮崎整形外科懇話会，1999，12，宮崎.

123) 自己血貯血における特殊症例についての検討

増田　寛，帖佐悦男，松岡知己，坂本武郎，安藤　徹，川野彰裕

田島直也，末廣和久

第39回宮崎整形外科懇話会，1999，12，宮崎.

124) 20年を経過した新鮮同種膝関節部分移植の一例

渡辺　雄，松本智子

第39回宮崎整形外科懇話会，1999，12，宮崎.

125）膝蓋骨sleeve fracture の１例

大田博人，川添浩史，石田康行，長鶴義隆

第39回宮崎整形外科懇話会，1999，12，宮崎.

126）30歳男性に発症した両側大腿骨頚部特発骨折の１例

黒沢　治，税所幸一郎，前田和徳，蛯原啓文

第39回宮崎整形外科懇話会，1999，12，宮崎.

127）大腿骨頚部内側骨折を来した一過性大腿骨頭萎縮症の１例

飯干　明，内田秀穂

第39回宮崎整形外科懇話会，1999，12，宮崎.

128）エチドロン酸二ナトリウム短期投与における骨代謝マーカーと骨塩量の関係

後藤啓輔，田島直也，久保紳一郎，黒木浩史，渡邊信二

第39回宮崎整形外科懇話会，1999，12，宮崎.

129）骨粗鬆症性脊椎骨折予後不良例の検討

田辺龍樹，矢野浩明，山口政一朗，益山松三

第39回宮崎整形外科懇話会，1999，12，宮崎.

◆講　　演

1）身体障害者福祉法の仕組みと実際

黒木俊政

平成10年度宮崎県理学療法士会生活環境支援系理学療法研究部会，1999，1，清武.

2）スポーツ医学　－成長期のスポーツ外傷・障害、暑さ対策－

樋口潤一

日本サッカー協会公認準指導員養成講習会（Ｊリーグ選手会主催），1999，1，宮崎.

3）骨粗鬆症の予防

山口和正

宮崎市健康教室，1999，1，宮崎.

4）脊椎のスポーツ障害　－脊椎とスポーツ－

田島直也

第21回青森県スポーツ医学研究会，1999，２，八戸.

5）整形外科における脊椎疾患について

平川俊一

第10回実践薬学セミナー，1999，２，宮崎.

6）施設における医療・看護のあり方

黒木俊政

平成10年度第26回九州身体障害者療護施設研究大会，1999，２，清武.

7）日本における身体障害者福祉の現状とその未来

黒木俊政

平成10年度財団法人日本国際医療団医療福祉視察研修会，1999，２，清武.

8）医学の基礎知識Ⅰ

黒木俊政

平成10年度全労災主催ホームヘルパー２級研修会，1999，２，宮崎.

9）福祉機器等の研究開発のあり方

黒木俊政

平成10年度宮崎県福祉機器開発研究会，1999，３，宮崎.

10）サッカーで起こるケガとその対処法

樋口潤一

日本体育協会準指導者養成講習会（サッカー），1999，２，宮崎.

11）ランニングの医科学的考察

田島直也

学術講演会，1999，３，大阪.

12) 宮崎県高校スポーツ選手の体力の医・科学的解析と有効なトレーニング法の導入について
－特にラグビー選手に対して－

黒木俊政

平成11年度宮崎県体協スポーツ医・科学委員会特別講義，1999，４，延岡.

13) 身体障害者福祉用語等の基礎知識

黒木俊政

平成11年度身体障害者福祉担当者等研修会，1999，５，清武.

14) 医学の基礎知識Ⅰ

黒木俊政

平成11年度介護労働安定センターホームヘルパー２級研修会，1999，５，宮崎.

15) 身体障害者福祉法における身体障害者手帳の活用とその理解

黒木俊政

平成11年度身体障害者福祉担当者等中級研修会，1999，５，清武.

16) 宮崎県高校スポーツ選手の医・科学的解析と有効なトレーニング法 －特に新体操選手に対して－

黒木俊政

平成11年度宮崎県体協スポーツ医・科学委員会特別講義，1999，５，小林.

17) スポーツ新時代

黒木俊政

平成11年度朝日新聞社宮崎懇話会，1999，６，宮崎.

18) スポーツの楽しさとスポーツ医学の関わり

黒木俊政

サンシャインFM，1999，６，宮崎.

19) 装　具　学

黒木俊政

平成11年度身体障害者福祉担当者等研修会，1999，６，清武.

20) 強化指定校のメディカルチェックの現状

黒木俊政

平成11年度宮崎県体協加盟団体メディカル担当者研修会，1999，6，宮崎.

21) ジュニア期におけるスポーツ傷害と正しいトレーニングについて

黒木俊政

平成11年度宮崎県運動部活動外部指導者研修会，1999，6，宮崎.

22) 電動車いすの種類とその適応

黒木俊政

平成11年度身体障害者福祉担当者等研修会，1999，7，清武.

23) ライフステージと健やかスポーツ　－スポーツドクターが語る健康と障害の予防－

黒木俊政

平成11年度宮崎県スポーツボランティアセミナー，1999，7，宮崎.

24) 脊椎とスポーツ

田島直也

第16回島根スポーツ医学フォーラム，1999，8，出雲.

25) 義肢・装具、日常生活用具および自助具の種別と活用

黒木俊政

財団法人宮崎県障害者雇用促進協会主催　平成11年度障害者職業生活相談員資格認定講習会，1999，8，延岡.

26) 障害児療育の基礎知識

山口和正

特殊教育研修講座，1999，8，宮崎.

27) 地域医療センターへの期待

山口和正

宮崎市地域医療シンポジウム，1999，8，宮崎.

28) サッカー日本高校選抜ヨーロッパ遠征帯同ドクターの経験

樋口潤一

宮崎県医師会スポーツ医学夏期講演会，1999，9，宮崎.

29）整形外科－腰痛について

平川俊一

サンシャインFM健康相談，1999，10，宮崎.

30）真のスポーツランドに

黒木俊政

平成11年度朝日新聞社宮崎懇話会，1999，10，宮崎.

31）医学の基礎知識Ⅰ

黒木俊政

平成11年度介護労働安定センターホームヘルパー２級研修会

1999，11，宮崎.

32）腰椎後側方固定術

田島直也

都城地区整形外科医会，1999，11，都城.

33）リハビリテーションの基礎知識

黒木俊政

平成11年度介護労働安定センターホームヘルパー２級研修会

1999，11，宮崎.

34）重度肢体不自由者の病因とその理解　－その１－脳性麻痺、頚髄損傷

黒木俊政

平成11年度宮崎県ガイドヘルパー事業，1999，11，清武.

35）重度肢体不自由者の病因とその理解　－その２－進行性筋ジストロフィー、ALS

黒木俊政

平成11年度宮崎県ガイドヘルパー事業，1999，11，清武.

36）スポーツ医学の役割とその将来

－医科学的評価から見た宮崎県スポーツ選手の現状と競技力について－

黒木俊政

宮崎県鍼灸マッサージ師会20周年記念大会特別講演

1999，11，宮崎.

37) 股関節脱臼をおこさない介助

山口和正

重心児交流キャンプ，1999，11，宮崎.

38) 腰椎後側方固定術について

田島直也

日本医科大学整形外科学教室平成11年度同窓会研修会

1999，12，東京.

39) 運動障害と予防

黒木俊政

平成11年度厚生省健康運動指導者育成研修会，1999，12，宮崎.

40) スポーツ障害について　－応急処置の実際－

樋口潤一

平成11年度宮崎県高等学校教育研究会保健体育部会・宮崎東諸支部研究発表大会，1999，12，佐土原.

41) 平成11年度健康運動実践指導者養成講習会　－機能的解剖学、外科的救急処置－

樋口潤一

健康運動実践指導者養成講習会，1999，12，宮崎.

42) 乳幼児の発達の見方

山口和正

保健所保健婦研修会，1999，12，日南.

編集後記

いよいよ21世紀の幕が開きました。

社会のシステムや人間のモラルが崩壊する中、21世紀には果たして我々が子供の頃思い描いていた夢の未来社会がやって来るのでしょうか。確かに人類はその文明を進歩させて来ました。20世紀の100年はその進歩の速度が人類始まって以来最も速かったと言われます。確かに生活は便利にはなりました。遺伝子情報までも人類が操る時代です。しかし、我々人類は真に進歩しているのでしょうか。21世紀に立ち会えた者として、この100年を全部見届ける事はできないまでも、見守っていく責任があると思います。

さてそんなわけで、21世紀初めての同門会誌をお届けします。

昨年、山田先生がご逝去されました。ご冥福をお祈りしたいと思います。玉井先生と木村先生には追悼文をご寄稿頂きました。また、スポーツ医学を看板に掲げる教室らしく、押川先生、樋口先生にはオリンピック観戦記を、岡田先生にはマラソン体験記を書いていただきました。山口先生にはインターネットを利用しての勉強の実際をご披露いただきました。久保先生の釣りの話と留学記。津曲先生、谷口先生の開業奮闘記。今回第2弾になる神薗先生の奥様による「夫を語る」。去年の認定医試験始末記。等、どれも力作揃いです。他にもたくさんのご寄稿を頂き、ありがとうございました。同門会誌は皆様の投稿によって支えられております。今後ともご協力の程宜しくお願い致します。

2001年1月

福　田　健　二

宮崎医大整形外科学教室

同　門　会　誌

発　行　日　平成13年2月
発　行　者　宮崎医科大学整形外科学教室同門会
編集責任者　福　田　健　二
印　刷　所　身体障害者授産施設やじろべえ